

科目名	論理国語	単位数	2	履修学年	3	必修
使用教科書	高等学校 文学国語(第一学習社)					
副教材	課題用問題集・便覧・辞書等					

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を身につけ、言語活動を通して、言葉で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の文学に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の文学の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の文学に対する理解を深めている。	C
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	B C
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の文学の担い手としての自覚をもとうとしている。	A D
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度</p> <p>B 説明・記述問題への取り組み</p> <p>C 定期試験・小テスト</p> <p>D 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が50%～79%	各小テストでの平均点が49%以下
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が50～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が49%以下
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が50～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が49%以下
	説明・記述問題への取り組み	自身の考えを明確に言語化・文章化し、正しく他者に伝えられている	自身の考えを言語化・文章化でき、他者に伝えようと努めている	他者に伝わる言語化・文章化ができていない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っている	授業に意欲的に取り組んでいる	授業に意欲的に取り組んでいない
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない

国語科の育てたい資質能力

(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力

(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	身体の個別性	<input type="checkbox"/> 文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。		○		B	中間試験
		<input type="checkbox"/> 筆者が指摘する「本源的自己中心性」について理解を深めている。		○		C	
5		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
<input type="checkbox"/> 「自己中心的利他性の弊」に自覚的になるために必要なことについて考えを深めている。				○	D		
6	いのちのかたち	<input type="checkbox"/> 筆者の指摘について自身に引きつけて考え、積極的に自分の考えを発表しようとしている。			○	A	期末試験
		<input type="checkbox"/> 筆者の抱く「いのち」の概念について、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直している。		○		B	
	<input type="checkbox"/> 主張に説得力を持たせるための論展開を的確に捉えている。		○		C		
7	リスク社会とは何か	<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 筆者の指摘について自身に引きつけて考え、積極的に自分の考えを発表しようとしている。			○	A	

2 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8 9	コスモポリタニズムの可能性	<input type="checkbox"/> 筆者の主張を把握し、新たな観点から自分の考えを深めている。		○		B	中間試験
		<input type="checkbox"/> 「コスモポリタニズム」の定義や論理の展開を的確に捉えている。		○		C	
10	目に見える制度と見えない制度	<input type="checkbox"/> 語句の意味を調べ、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 筆者の論展開を支える文章表現上の工夫を理解して主張を捉えている。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 身の回りの制度について、多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。			○	A	
11		<input type="checkbox"/> 論の展開を意識し、内容を理解して、学習課題に沿ってまとめる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 語句の意味を調べ、語彙を豊かにする。	○			C	
12	大学入試共通テスト直前演習	<input type="checkbox"/> 論の展開を意識し、内容を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 設問に対する答え方を理解する。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 語彙や国語常識の知識を増やす。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 時間配分を体得する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 語彙や国語常識の知識を増やす。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く問題に取り組む。			○	A	

3 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	大学入試共通テスト直前演習	<input type="checkbox"/> 論の展開を意識し、内容を理解する。		○		B	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 設問に対する答え方を理解する。				B	
		<input type="checkbox"/> 語彙や国語常識の知識を増やす。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 時間配分を体得する。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く問題に取り組む。			○	A	
2	大学入試問題演習	<input type="checkbox"/> 論の展開を意識し、内容を理解する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 設問に対する答え方を理解する。				B	
3		<input type="checkbox"/> 語彙や国語常識の知識を増やす。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 様々な種類の問題を解き実践力を身に付ける。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く問題に取り組む。			○	A	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※ 評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	文学国語	単位数	2	履修学年	3	必修
使用教科書	高等学校 文学国語(第一学習社)					
副教材	課題用問題集・便覧・辞書等					

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を身につけ、言語活動を通して、言葉で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の文学に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の文学の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の文学に対する理解を深めている。	C
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	B C
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の文学の担い手としての自覚をもとうとしている。	A D
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 説明・記述問題への取り組み C 定期試験・小テスト D 課題等の提出	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が50%～79%	各小テストでの平均点が49%以下
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が50～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が49%以下
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が50～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が49%以下
	説明・記述問題への取り組み	自身の考えを明確に言語化・文章化し、正しく他者に伝えられている	自身の考えを言語化・文章化でき、他者に伝えようと努めている	他者に伝わる言語化・文章化ができていない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っている	授業に意欲的に取り組んでいる	授業に意欲的に取り組んでいない
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない

国語科の育てたい資質能力

(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力

(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	檸檬 (梶井基次郎)	<input type="checkbox"/> 「檸檬」が私に及ぼした影響を捉える。		○		B	中間試験
		<input type="checkbox"/> 時系列に注意し、「私」の心の動きを把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 情景描写の役割を理解する。					
5		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 同時代の作家について調べる。			○	A	
6	枯野抄 (芥川龍之介)	<input type="checkbox"/> 人生や他者に対する考察を深める。		○		B	期末試験
		<input type="checkbox"/> 弟子たちが芭蕉の臨終に際してそれぞれに抱く心情を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 引用された俳句の役割を理解する。					
7		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 弟子たちの誰に共感できるかを発表する。			○	A	

2 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	舞姫 (森鷗外)	<input type="checkbox"/> 物語の展開を整理し、登場人物の心情を把握する。		○		B	中間試験
9		<input type="checkbox"/> 「豊太郎」の「エリス」に対する心情の変化を把握する。 <input type="checkbox"/> 時代背景を踏まえて、「豊太郎」と「エリス」の関係を考察する。		○		C	
10		<input type="checkbox"/> 語句の意味を調べ、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 本文の結末について、意見をまとめる。			○	A	
11	棒 (阿部公房)	<input type="checkbox"/> 超現実的な内容が提起する問題について考察する。		○		B	期末試験
12		<input type="checkbox"/> 変身と対話にこめられた寓意を理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 語句の意味を調べ、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と論の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
12	大学入試共通テスト 直前演習	<input type="checkbox"/> 「私」の一人称の語りの効果について考える。			○	A	期末試験
		<input type="checkbox"/> 論の展開を意識し、内容を理解する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 設問に対する答え方を理解する。				B	
		<input type="checkbox"/> 語彙や国語常識の知識を増やす。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く問題に取り組む。			○	A	

3 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	大学入試共通テスト直前演習	<input type="checkbox"/> 論の展開を意識し、内容を理解する。		○		B	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 設問に対する答え方を理解する。				B	
		<input type="checkbox"/> 語彙や国語常識の知識を増やす。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 時間配分を体得する。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く問題に取り組む。			○	A	
2	大学入試問題演習	<input type="checkbox"/> 論の展開を意識し、内容を理解する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 設問に対する答え方を理解する。				B	
3		<input type="checkbox"/> 語彙や国語常識の知識を増やす。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 様々な種類の問題を解き実践力を身に付ける。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く問題に取り組む。			○	A	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※ 評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	古典探求	単位数	理2 文3	履修学年	3	必修
使用教科書	古典探求 古文編・漢文編（大修館書店）					
副教材	課題用問題集・単語帳・便覧・辞書等					

学習の到達目標	<p>古典文学を通してものの見方や考え方を深め、言語活動を通して、文化や人間を理解する能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	C
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	B C
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	A D
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 説明・記述問題への取り組み C 定期試験・小テスト D 課題等の提出	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が50%～79%	各小テストでの平均点が49%以下
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が50～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が49%以下
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が50～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が49%以下
	説明・記述問題への取り組み	自身の考えを明確に言語化・文章化し、正しく他者に伝えられている	自身の考えを言語化・文章化でき、他者に伝えようと努めている	他者に伝わる言語化・文章化ができていない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っている	授業に意欲的に取り組んでいる	授業に意欲的に取り組んでいない
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない

国語科の育てたい資質能力

(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力

(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	古文 源氏物語 「光源氏の誕生」 「若紫との出会い」	<input type="checkbox"/> 話の展開を把握し、登場人物の心情を理解する。		○		B	中間試験
		<input type="checkbox"/> 桐壺更衣をめぐる人間関係を把握し、それぞれ思いを理解する。 <input type="checkbox"/> 当時の文化を踏まえて、内容を理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 敬語を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 助動詞の知識を増やす。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 「源氏物語」に出てくる女性を調べて、興味を持った人物について発表する。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
5	漢文 項王の最期 「四面皆楚歌す」 「我何の面目ありて之に見えん」	<input type="checkbox"/> 話の背景を理解し、登場人物の立場を把握する。			○	B	中間・期末試験
		<input type="checkbox"/> 登場人物の関係や、出来事を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> それぞれの言動における目的や、性格を読み取る。					
		<input type="checkbox"/> 故事成語の現代での意味を知る。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 反語などの句法を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 「英雄の器」と読み比べて考えをまとめる。			○	A	
6		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
7	古文 枕草子 「二月つごもりごろに」	<input type="checkbox"/> 和歌のやりとりの経緯を理解する。		○		C	期末試験
		<input type="checkbox"/> 和歌に込められた心情を理解する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 人物関係を把握し、登場人物の言動について理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 和歌の贈答など当時の風習について知る。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 敬語を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 助動詞の知識を増やす。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 日記的章段について理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	

2 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8 9	古文 蜻蛉日記 「町の小路の女」	<input type="checkbox"/> 話の展開を把握し、作者の心情を理解する。		○		B	中間試験
		<input type="checkbox"/> 作者の物語への思いを理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 当時の文化を踏まえて、内容を理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 和歌の修辞技法を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 他の日記文学について調べ、特徴を整理する。			○	A	
10	漢文 漢詩・古体詩 「人生」「社会」	<input type="checkbox"/> 詩の形式を理解し、作者の主張を把握する。		○		B	中間・ 期末試験
		<input type="checkbox"/> 当時の社会背景を理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
	漢文 思想 「荘子」	<input type="checkbox"/> 筆者の主張を把握する。				B	
		<input type="checkbox"/> 老荘思想について理解する。		○		C	
11	古文 和泉式部日記 「薫る香に」	<input type="checkbox"/> 句法を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 諸子百家の思想や流れを調べてまとめる。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 話の展開を把握し、作者の心情を理解する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 作者の物語への思いを理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 当時の文化を踏まえて、内容を理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
12	大学入試共通テスト 直前演習	<input type="checkbox"/> 和歌の修辞技法を理解する。	○			C	期末試験
		<input type="checkbox"/> 助動詞の知識を増やす。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 当時活躍した女性について調べる。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く問題に取り組む。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 論の展開を意識し、内容を理解する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 設問に対する答え方を理解する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 語彙や国語常識の知識を増やす。	○			B	

3 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	大学入試共通テスト直前演習	<input type="checkbox"/> 論の展開を意識し、内容を理解する。		○		B	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 設問に対する答え方を理解する。				B	
		<input type="checkbox"/> 語彙や国語常識の知識を増やす。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 時間配分を体得する。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く問題に取り組む。			○	A	
2	大学入試問題演習	<input type="checkbox"/> 論の展開を意識し、内容を理解する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 設問に対する答え方を理解する。				B	
3		<input type="checkbox"/> 語彙や国語常識の知識を増やす。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 様々な種類の問題を解き実践力を身に付ける。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く問題に取り組む。			○	A	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※ 評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	表現研究	単位数	2	履修学年	3	選択
使用教科書	なし					
副教材	課題用問題集・便覧・辞書等					

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を身につけ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</p> <p>(2) 「はなす」「かく」方面の言語表現を深めることで、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって表現活動に親しみ自己を向上させ、我が国の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、現代と過去の国語に対する理解を深めている。	C D
思考・判断・表現	「はなすこと」、「かくこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	B C
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の担い手としての自覚をもとうとしている。	A D
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 説明・記述問題への取り組み C 定期試験・小テスト D 課題等の提出	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が50%～79%	各小テストでの平均点が49%以下
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が50～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が49%以下
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が50～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が49%以下
	説明・記述問題への取り組み	自身の考えを明確に言語化・文章化し、正しく他者に伝えられている	自身の考えを言語化・文章化でき、他者に伝えようと努めている	他者に伝わる言語化・文章化ができていない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っている	授業に意欲的に取り組んでいる	授業に意欲的に取り組んでいない
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない

国語科の育てたい資質能力

(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力

(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	スピーチと自己紹介	<input type="checkbox"/> 口頭発表の構成や展開、表現の仕方などについて理解し、自己の考えを的確に表現する方法を学ぶ。		○		B	期末試験
		<input type="checkbox"/> 学習活動の意義を理解し、周囲と共同して主体的に集団学習に参加する。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
5	作文と相互評価	<input type="checkbox"/> 作文の構成や展開、表現の仕方などについて理解し、自己の考えを的確に表現する方法を学ぶ。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 学習活動の意義を理解し、周囲と共同して主体的に集団学習に参加する。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
N I E		<input type="checkbox"/> 記事文の構成や展開、表現の仕方などについて理解し、自己の考えを的確に表現する方法を学ぶ。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 学習活動の意義を理解し、周囲と共同して主体的に集団学習に参加する。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
6	ディベート	<input type="checkbox"/> 討論・批評の論理や技術、表現の仕方などについて自己の考えを的確に表現する方法を学ぶ。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 学習活動の意義を理解し、周囲と共同して主体的に集団学習に参加する。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
7	志望理由書	<input type="checkbox"/> 自己開示の文章作法について理解し、自己の考えを的確に表現する方法を学ぶ。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 学習活動の意義を理解し、周囲と共同して主体的に集団学習に参加する。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	

2学期・3学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	小論文	<input type="checkbox"/> 小論文の構成や展開、表現の仕方などについて理解し、自己の考えを的確に表現する方法を学ぶ。		○		B	学年末試験
9		<input type="checkbox"/> 学習活動の意義を理解し、周囲と共同して主体的に集団学習に参加する。			○	D	
10		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
11	大学入試共通テスト 直前演習	<input type="checkbox"/> 論の展開を意識し、内容を理解する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 設問に対する答え方を理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 語彙や国語常識の知識を増やす。	○			C	
12		<input type="checkbox"/> 時間配分を体得する。			○	D	
<input type="checkbox"/> 粘り強く問題に取り組む。				○	A		

科目名	日本史探究	単位数	2	履修学年	3	選択
使用教科書	「詳説日本史」(山川出版社)					
副教材	「新日本史要点ノート」(啓隆社) 「図説日本史通覧」(帝国書院) 「日本史重要語句CheckList」(啓隆社) 「要点整理ゼミナール日本史」(浜島書店)					

学習の到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	A B
思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	A C
主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	A B C D
評価方法	A 定期試験・小テスト・レポート B ワークシート・ノート等の提出物 C 授業でのグループ活動・発表 D 学習に対する意欲・態度	

評価のためのルーブリック					
		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	50
	小テスト	各小テストでの平均点が85%以上	各小テストでの平均点が60%～84%	各小テストでの平均点が59%以下	
	レポート	歴史的な知識・技能を活用し、意欲的な取り組みが見てとれる	歴史的な知識・技能を活用した取り組みが見てとれる	歴史的な知識・技能を活用した取り組みが不十分である	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下	30
	発表	資料等を活用し、歴史の展開から課題を考察し、発表に向かっている	準備等、学習への態度が良好で、意欲的に発表に臨んでいる	準備が不十分である 発表への積極性が不十分	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題の提出が不十分である	20
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかりと取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	

地歴科の育てたい資質能力

- (1) 探究力：社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする力
- (2) 主体性：よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする力
- (3) 発信力：社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の意見や考えをまとめ、課題解決の在り方を問うことのできる力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	第11章 近世から近代へ	<input type="checkbox"/> 国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。		○		A B	中間試験
	1 開国と幕末の動乱	<input type="checkbox"/> 幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一扫に至るまでの経過を理解する。	○			A C	
	2 幕府の滅亡と新政府の発足	<input type="checkbox"/> 近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。		○	○	A C	
5	第12章 近代国家の成立	<input type="checkbox"/> 明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。	○			A B	
	1 明治維新と富国強	<input type="checkbox"/> 自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。		○		A C	
6	第13章 近代国家の展開	<input type="checkbox"/> 不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。	○			A B	
		1 日清・日露戦争と	<input type="checkbox"/> 日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。		○	○	A C
	2 第一次世界大戦と	<input type="checkbox"/> 第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や中国進出の状況を踏まえて理解する。	○			A B	
	3 ワシントン体制	<input type="checkbox"/> ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展と民主主義的風潮による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。		○	○	A C	
7	第14章 近代の産業と生活	<input type="checkbox"/> 資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。		○		A C	
	1 近代産業の発展	<input type="checkbox"/> 伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。		○		A C	
	2 近代文化の発達	<input type="checkbox"/> 労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、大衆文化の特色について考察する。		○	○	C D	
	3 市民生活の変容と大衆文化						

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8 9	第15章 恐慌と第二次世界大戦	<input type="checkbox"/> 昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、経済状況と対策に着目して理解し、協調外交が挫折していく過程を考察する。	○	○		A B	中間試験
	1 恐慌の時代	<input type="checkbox"/> 世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。	○		○	C D	
	2 軍部の台頭						
	3 第二次世界大戦	<input type="checkbox"/> 日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について理解し、全体主義的な国家体制の進展を考察する。		○	○	C D	
	第16章 占領下の日本	<input type="checkbox"/> 戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。	○			A B	
12	1 占領と改革	<input type="checkbox"/> 東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。		○	○	A C	期末試験
	2 冷戦の開始と講話						
	第17章 高度成長の時代	<input type="checkbox"/> 独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。	○			A C	
	1 55年体制	<input type="checkbox"/> 経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察し、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。	○	○		A C	
	2 経済復興から高度経済成長へ						
12	第18章 激動する世界と日本	<input type="checkbox"/> 先進国首脳会議が開かれた意義を理解し、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的に考察する。	○	○		A B	期末試験
	1 経済大国への道	<input type="checkbox"/> 冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について理解し、環境やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。		○	○	A C	
	2 冷戦の終結と日本社会の変容						

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	現代日本の課題の研究	<input type="checkbox"/> 災害を題材に、諸資料から情報を読み取って考察し、それを表現する方法を学ぶ。	○	○		BC	
2		<input type="checkbox"/> 事例を参考に、自ら適切な主題を設定して歴史を探究し、表現する。		○	○	CD	
3							

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	世界史探究	単位数	2	履修学年	3	文型選択
使用教科書	「詳説世界史B」(山川出版社)					
副教材	ニューステージ世界史詳覧(浜島書店) 新世界史要点ノート〔標準編〕(啓隆社)					

学習の到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 学習した世界史の基本的な事象の原因・経過・結果を正しく理解できたか。 得た知識や理解したことを、その後の学習と関連付けて理解しようとしているか。 	A B
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 歴史事象の発生要因・原因等を与えられた資料から読み取ることができているか。 与えられた歴史事象の間に対して自分自身の言葉で表現できているか。 	A B C
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	B C D
評価方法	A 定期試験・小テスト B ワークシート・ノート等の提出物 C 授業でのグループ活動・発表 D 授業での学習に対する意欲や態度	

評価のためのルーブリック					
		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が85%以上	各小テストでの平均点が60%～84%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下	30
	発表	資料等を活用し、歴史の展開から課題を考察し、発表に向かっていく表現力豊かな発表	準備等、学習への態度が良好で、意欲的に発表に臨んでいる	準備が不十分である発表への積極性が不十分	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題の提出が不十分である	20
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかりと取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	

地歴科の育てたい資質能力

- (1) 探究力：社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする力
- (2) 主体性：よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする力
- (3) 発信力：社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の意見や考えをまとめ、論理的に表現する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
		知識技能	思考判断表現	態度		
第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	□ 19世紀欧米文化の様々な事例をもとに、この時期の文化と現代の文化とのつながりを考察している。		○	○	BD	中間試験
第Ⅲ部 第12章 産業革命と環大西洋革命	□ 産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。	○		○	AC	
	□ アメリカ独立宣言や「権利の章典」などの資料をもとにアメリカ独立の独自性を多面的に考察している。		○	○	BC	
	□ フランス革命やナポレオンについて、自分の興味を抱いたこと疑問点を見出して主体的に学習に取り組んでいる。		○	○	BD	
	□ 中南米諸国の独立がどのような経緯をたどり実現したか考察・理解している。	○	○		AB	
第13章 イギリスの優位と欧米 国民国家の形成	□ ウィーン会議後の地図や絵画をもとに、会議が各国に与えた影響を考察・表現している。	○	○		AC	
	□ ヨーロッパ情勢がどのように推移したのかをウィーン体制や1848年革命、様々な主義主張の特徴と合わせて理解している。	○		○	AB	
	□ 南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造や、その後の展開を理解している。	○		○	AC	
	□ 19世紀の欧米文化について、興味・関心・疑問を持ちながら学習に取り組んでいる。		○	○	CD	
第14章 アジア諸地域の動向	□ 中東における改革の推移をヨーロッパ列強との関係も合わせて理解している。	○		○	AD	
	□ 南アジアと東南アジアの植民地化と世界経済の関係を多角的に考察できている。	○	○	○	AC	
	□ 欧米諸国の進出の経緯と東アジア諸国の改革の試みの成果や課題を理解している。	○	○		AB	
第15章 帝国主義とアジアの民族運動	□ 第2次産業革命が社会に与えた影響や帝国主義時代の欧米列強の国内情勢及び植民地拡大の経緯を理解している。	○	○		AB	
	□ 図表をもとに列強による世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察・表現している。		○	○	AC	
	□ アジア各地における改革や民族運動がどのように展開し、いかなる結果をもたらしたのかを理解している。	○		○	BD	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	第16章 第一次世界大戦と世界の変容	□第一次世界大戦とロシア革命がどのように展開したのかを戦時外交や総力戦、大戦のもたらした結果とあわせて理解している。	○	○		AB	中間試験
		□1920年代の欧米諸国における変容を多面的・多角的に考察している。		○	○	BC	
9		□アジア・アフリカ地域の民族運動について、自分が抱いた興味・関心を積極的に学ぼうとしている。	○		○	D	
10	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	□世界恐慌が国際関係に与えた影響や各国の対応策、ヴェルサイユ体制の崩壊に至る経緯やファシズム諸国の動きについて理解する。	○	○	○	AC	
		□資料をもとに第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。	○	○		AB	
		□第二次世界大戦後に形成された故草津秩序の特徴を、それ以前との相違点を踏まえて理解している。	○	○		AD	
11	iv 部 第18章 冷戦と第三世界の台頭	□冷戦下における東西両陣営の社会を変容を多面的・多角的に考察している。	○	○		BC	期末試験
		□冷戦の下で第三世界の台頭がどのように進んだのかを理解している。	○			A	
		□ベトナム戦争をはじめとする60年代以降の冷戦体制の動揺やその推移を米ソの代理戦争としての視点で考察している。	○	○	○	AB	
	第19章 冷戦の終結と今日の世界	□原油価格の推移や経済成長率の推移などをもとにオイルショックが世界の社会・経済に与えた影響を表現している。	○	○		BC	
□冷戦がどのような経緯をたどり、終結したかを各事象を踏まえて理解している。		○		○	AD		
□冷戦終結後の各地の状況や地域・民族紛争、経済における世界の一体化を理解している。		○			AB		
12			□人々の世界観や生活のありようの変化を多面的・多角的に考察している。		○	○	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識 技能	思考 判断 表現	態度		
1							
2	問題演習及び課題学習	□自ら適切な主題を設定して歴史を探究し、論理的に表現する。		○		B D	
3							

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	日本史研究	単位数	2	履修学年	3	選択
使用教科書	「図説日本史通覧」(帝国書院)					
副教材	「日本史重要史料207選」(帝国書院) 「新日本史要点ノート」(啓隆社) 「詳説日本史」(山川出版) 「日本史重要語句CheckList」(啓隆社) 「要点整理ゼミナール日本史」(浜島書店)					

学習の到達目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けているか。 歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめているか。 	A B
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の展開から課題を見だし、多面的・多角的に考察できているか。 日本の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現できているか。 	A C
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の展開に対する関心と課題意識を高めているか。 歴史的な事象を意欲的に追究できているか。 	A B C D
評価方法	A 課題テスト・小テスト・レポート B ワークシート・ノート等の提出物 C 授業でのグループ活動・発表 D 学習に対する意欲・態度	

評価のためのルーブリック					
		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	課題テスト	平均点の120%以上	平均点の60%～119%	平均点の59%以下	50
	小テスト	各小テストでの平均点が85%以上	各小テストでの平均点が60%～84%	各小テストでの平均点が59%以下	
	レポート①	歴史的な知識・技能を活用し、意欲的な取り組みが見てとれる	歴史的な知識・技能を活用した取り組みが見てとれる	歴史的な知識・技能を活用した取り組みが不十分である	
思考・表現・判断	レポート②	歴史的な知識・技能を活用し、思考・判断・表現を工夫している	歴史的な知識・技能を活用し、思考・判断・表現している	歴史的な知識・技能が思考・判断・表現につながらない	30
	発表	資料等を活用し、歴史の展開から課題を考察し、発表に向かっている	準備等、学習への態度が良好で、意欲的に発表に臨んでいる	準備が不十分である 発表への積極性が不十分	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題の提出が不十分である	20
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかりと取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	

地歴科の育てたい資質能力

- (1) 探究力：社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする力
- (2) 主体性：よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする力
- (3) 発信力：社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の意見や考えをまとめ、課題解決の在り方を問うことできる力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	I 原始・古代 1、文化と国家の形成	日本列島における文化の発生について、科学的な調査・研究の成果に基づいて明らかになっていくことが理解できたか。		○	○	AC	
	5	2、古代国家の確立	律令政府が貴族層の生活や国家体制を維持するために、民衆を把握する支配体制を整備していったことを理解できたか。	○	○	AB	
6	II 中世 3、中世社会の成立	律令制が変質し、荘園を中心とした社会になってきたことを理解できたか。	○			AB	
	4、中世社会の展開	鎌倉・室町の幕府の政策と東アジアの関係を理解できたか。		○		AC	
7	III 近世 5、統一政権の成立	天下統一の過程が、ヨーロッパからの影響のもとでおこなっていることを理解できたか。	○		○	AD	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
9	6、幕藩体制の展開	幕藩制度の矛盾の出現の理由と幕政改革の展開を理解できたか。	○			A B	
10	IV 近代						
	7、近代国家の形成	明治政府が天皇を統治の中心に据え、近代化を推進していったことを理解できたか。		○	○	A C	
11	8、近代国家の展開	日清・日露戦争により、日本の朝鮮への支配が強まっていったことを理解できたか。		○	○	A B	
	9、15年戦争と日本・アジア	政党政治と協調外交が昭和恐慌、世界恐慌に直面した結果、軍部の台頭を招いたことを理解できたか。	○			A B	
12	V 現代						
	10、戦後改革と高度経済成長	冷戦構造の中で、日本はアメリカを中心とする資本主義陣営に組み込まれたことを理解できたか。		○	○	A C	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	11、現代の世界と日本	冷戦終結後の国際情勢の変化に対応した日本外交の推移と、今後の課題について理解できたか。	○	○	○	AB	
	問題演習		○	○	○	AB	
	問題演習		○	○	○	AB	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	世界史研究	単位数	2	履修学年	3	文型選択
使用教科書	ニューステージ世界史詳覧(浜島書店)					
副教材	「詳説世界史B」(山川出版社) 新世界史要点ノート〔標準編〕(啓隆社)					

学習の到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した世界史の基本的な事象の原因・経過・結果を正しく理解できたか。 ・得た知識や理解したことを、その後の学習と関連付けて理解しようとしているか。 	A B
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史事象の発生要因・原因等を与えられた資料から読み取ることができているか。 ・与えられた歴史事象の間に対して自分自身の言葉で表現できているか。 	A B C
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	B C D
評価方法	A 定期試験・小テスト B ワークシート・ノート等の提出物 C 授業でのグループ活動・発表 D 授業での学習に対する意欲や態度	

評価のためのルーブリック					
		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が85%以上	各小テストでの平均点が60%～84%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下	30
	発表	資料等を活用し、歴史の展開から課題を考察し、発表に向かっている表現力豊かな発表	準備等、学習への態度が良好で、意欲的に発表に臨んでいる	準備が不十分である発表への積極性が不十分	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題の提出が不十分である	20
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	

地歴科の育てたい資質能力

- (1) 探究力：社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする力
- (2) 主体性：よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする力
- (3) 発信力：社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の意見や考えをまとめ、論理的に説明することができる力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	第1章 文明の成立と古代文明の特質	□各地の古代文明がどのような特徴を持っているかを各文明を比較することで考察・表現している。		○	○	BD	中間試験
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	□中央ユーラシア・東アジア世界はたがいどのように影響しあっていたかを各事象をもとに理解している。	○		○	AC	
5	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	□南アジアで生まれた宗教・文化はどのように各地に広がったかを理解し、東南アジアの社会について意欲的に学習している。	○		○	AD	
	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	□西アジアと地中海周辺に表れた諸国家は互いにどのように影響を与え、どのような特徴を持っていたか理解している。	○	○		AB	
	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	□イスラーム教の成立が西アジア・ヨーロッパ世界の人々の生活にどのように異教を与えたかを多角的に考察している。		○	○	CD	
6	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	□イスラーム教の諸地域への伝播とイスラーム教下の国々の動向を理解している。	○		○	AD	期末試験
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	□十字軍の遠征やビザンツ帝国の動向、封建社会の衰退による世界の変容を多角的に見てヨーロッパ世界の変容を考察・表現している	○	○	○	AC	
7	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	□10世紀前半の東アジアの変遷からモンゴル帝国の解体まで、それぞれの国家・王朝・民族の特徴を理解している。	○	○		AB	
	第9章 大交易・大交流の時代	□アジア交易世界の興隆とヨーロッパから始まる大航海時代を踏まえて「世界の一体化」を理解している。	○	○		AC	
	第10章 アジア諸帝国の繁栄	□オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国・清が繁栄した理由を理解しながらこれらの諸帝国に共通する事象を考察している。	○	○		AB	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	□近世ヨーロッパを政治・経済・宗教の観点から考察することで、中世ヨーロッパとの違いを理解している。	○	○		AB	中間試験
9	第12章 産業革命と環大西洋革命	□環大西洋世界で起こった経済・政治での革命の特徴を捉え、それぞれの事象の関連性を考察・表現している。		○	○	BD	
	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	□欧米諸国で起きた国民国家の形成と近代市民社会の形成理由を理解している。。	○		○	AD	
10	第14章 アジア諸地域の動揺	□19世紀アジアにおけるヨーロッパ諸国への従属化とそれに対する改革の動きを体系づけて理解している。	○	○	○	AC	
	第15章 帝国主義とアジアの民族運動	□列強の帝国主義政策による植民地諸国の影響を考察している。	○	○		AB	
11	第16章 第一次世界大戦と世界の変容	□第一次世界大戦の発生要因と結末を体系的に理解するとともに大戦後の世界の変化を考察している。	○	○		BC	期末試験
	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	□世界恐慌の発生による各国の対応とその後の第二次世界大戦への過程を理解している。	○		○	AD	
12	第18章 冷戦と第三世界の台頭	□冷戦下の東西両陣営の動向、第三世界の台頭を理解している。	○			A	
	第19章 冷戦の終結と今日の世界	□今日の地球世界における諸課題について考察し、解決のための案を表現している。		○	○	BCD	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識 技能	思考 判断 表現	態度		
1							
2	問題演習及び課題学習	□自ら適切な主題を設定して歴史的事象を研究し、論理的に表現する。		○		B D	
3							

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	政治・経済	単位数	2	履修学年	3	選択
使用教科書	政治・経済（数研出版）					
副教材	政治・経済 政治・経済整理ノート（数研出版）					

学習の到達目標	<p>(1) 現代社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>(2) 社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、社会の複雑な課題を多面的・多角的に考察し、把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、国民主権を担う公民として平和と繁栄を図ることや、社会の形成により積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解できたか。 ・諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができたか。 	A B C
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用し、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明することができているか。 ・身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養うことができているか。 	A B D
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。 	B C D
評価方法	<p>A 定期試験・小テスト B ワークシート・ノート等の提出物 C 授業でのグループ活動・発表 D 学習に対する意欲・態度</p>	

評価のためのルーブリック					
		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が60%～79%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下	30
	発表	資料・グラフ・地図等を活用して課題を考察し、発表に向かっていく表現力豊かな発表	準備等、学習への態度が良好で、意欲的に発表に臨んでいる	準備が不十分である発表への積極性が不十分	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題の提出が不十分である	20
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	

公民科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期							
月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	第1章 現代の政治 第1節 民主政治の基本 原理と展開 1 民主政治とその基本 原理	□民主政治の基本原則についての理解を深めている。また、民主政治の本質の理解を基に、現代政治との関連性を多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		A B	中間試験
	2 民主政治の展開	□法の支配や立憲主義に基づく憲法により、国民の自由や権利が保障されていることについて理解を深めている。また、国際連合で採択された世界人権宣言、国際人権規約などの人権文書の意義と課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		A B	
	3 政治体制の比較	□世界の主な政治体制について、各国の政治文化を背景にして様々な形態があること、また、近隣アジア諸国の政治体制、政治状況の特質や動向を取り上げ、民主政治の現状についての理解を深めている。	○		○	A D	
5	第2節 日本国憲法と基本 的人権 1 日本国憲法の基本的性 格	□日本国憲法と大日本帝国憲法の比較を通して、それぞれの特徴の理解を深めている。また、国家体制の違いや国民の権利保障の在り方の違いについて多面的・多角的に考察し、表現している。	○		○	A D	
	2 基本的人権の保障	□基本的人権の尊重について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。また、立憲主義の考え方に基づいて、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		A B	
	3 日本国憲法の平和主義	□日本の安全保障と防衛、国際貢献についての具体的事例を取り上げ、国際社会における日本の立場と役割について探究し、日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。		○	○	B C	
6	第3節 日本の政治機構 1 国会のしくみと役割	□議院内閣制についての理解を深めている。また、国会と内閣の関係について、国民主権の下で、国民の意思を国政に反映させるため国会の立法権と内閣の行政権の適切な関係性について多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		A B	中間・ 期末試験
	2 内閣と行政機構	□内閣と行政機構の在り方についての理解を深めている。また、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方等について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○		A B	
	3 裁判所のしくみと人権保障	□裁判所のしくみと人権保障について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。また、裁判員制度を通して、国民の司法参加の意義について理解を深めている。	○	○	○	A C	
	4 地方自治のしくみと住民生活	□地方自治のしくみと住民の政治参加の在り方について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。また、生徒自らの主権者としての政治参加のあり方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○	○	A C	
7	第4節 政治参加と民主政治の課題 1 戦後政治と政党	□戦後政治と政党について理解を深めている。また、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○		○	A D	期末試験
	2 選挙制度のしくみ	□選挙制度のしくみについて、国民の政治参加のための制度との関連について理解を深めている。また、選挙制度の課題について、政治的平等の原理の保障の観点から多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○		A B	
	3 世論と情報化社会	□世論と情報化社会について、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。また、マスメディアと国民世論の形成や政治的無関心を踏まえ、望ましい政治と主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察し表現している。	○		○	A D	

2 学期							
月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	第2章 現代の経済 第1節 経済活動の意義と経済体制 1 資本主義経済の発展と変容	□資本主義経済の発達と変容について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。	○		○	A D	中間試験
	9	2 経済活動の主体	□経済主体と経済循環について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。	○		○	
10	第2節 現代経済のしくみ 1 市場経済のしくみ	□市場経済における、経済活動と市場の働きと仕組みについて理解を深めている。また、市場経済の機能と限界について、具体的な事例の考察を通して、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○		A B	
	2 国民所得と経済成長	□国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。	○		○	A D	
	3 金融のしくみと働き	□金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。また、金融を通じた経済活動の活性化について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○		A B	
	4 財政のしくみと租税	□財政の働きと仕組み及び租税などの意義について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。また、財政健全化について、課題解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○		A B	
11	第3節 日本経済と福祉の向上 1 戦後日本経済のあゆみ	□戦後日本経済のあゆみについて理解を深めている。また、経済活動と福祉の向上との関連について、課題解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察し、表現している。	○		○	A D	中間・期末試験
	2 中小企業と農業・食料	□中小企業と農業・食料について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。また、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○		○	A D	
	3 公害防止と環境保全	□公害防止と環境保全について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。また、安全・安心な社会の実現のための課題解決に向けて、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。	○		○	A B	
12	4 消費者問題と消費者保護	□消費者問題と消費者保護について、現実社会の諸事象を通して理解を深め、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○		○	A D	期末試験
	5 労使関係と労働市場	□労使関係と労働市場について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。また、多様な働き方・生き方を可能にする社会について、政治と経済を関連させて多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		A C	
	6 少子高齢社会と社会保障	□少子高齢社会と社会保障について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。また、社会保障の充実・安定化について、課題解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○		A B	
	第3章 現代の国際社会 第1節 国際政治の動向	□国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について理解を深め、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○		○	A C	
	第2節 国際経済の動向	□国際経済の特質について理解を深めている。また、国益と地球的な規模での協調が求められている現状と問題点について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		A C	

3 学期							
月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考表現	態度		
1	第3節 国際社会の課題と日本の役割	□国際社会の課題と日本の役割について、グローバル化する国際社会の諸課題について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○		A B	
	問題演習	□自ら適切な主題を設定してを探究し、表現する。		○	○	B D	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けてい

;)
 る。

科目名	数学Ⅲ・C	単位数	7	履修学年	3	選択
使用教科書	新編 数学Ⅲ, 数学C (数研出版)					
副教材	「REPEAT 数学Ⅲ+C」 「チャート式 数学Ⅲ+C」 (数研出版)					

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・平面上のベクトル、空間のベクトル、複素数平面、式と曲線について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 ・関数、極限、微分法、微分法的应用、積分法とその応用について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	B C
思考・判断・表現	論理的に考察する力、方程式を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する力、規則性に着目し、事象を数学的に考察する力、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に着ける。また、傾向を推測し判断したり、方法や結果を批判的に考察したりする力、日常や社会の事象を数学化し、問題を解決する力を身に着ける。	B C
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	A D
評価方法	A 授業態度 B 定期試験 C 単元テスト D 課題	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	B 定期試験	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	50
	C 単元テスト	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	
思考・表現・判断	B 定期試験	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	30
	C 単元テスト	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	
主体的に学習に取り組む態度	A 授業態度	授業に意欲的に取り組み、主体的な態度である	授業に意欲的に取り組んでる	授業に意欲的に取り組んでいない	20
	D 課題	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	

※基準点は、テスト毎の難易度により変動

数学科の育てたい資質能力	
(1)	思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
(2)	探求力：物事を見極め追求し、課題を解決する力
(3)	主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
小山西高校の育てたい資質能力	
「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」	

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	<数学C> 第1章 平面上のベクトル 1. ベクトルとその演算 2. ベクトルと平面図形	<input type="checkbox"/> 有効線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解するとともに、ベクトルの和、差、実数倍の定義を理解し、計算や図示ができる。	○			C	中間試験
		<input type="checkbox"/> ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、成分表示されたベクトルの様々な演算を行うことができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> ベクトルの内積の定義を理解し、2つのベクトルのなす角や三角形の面積を求めたり、垂直条件を利用できる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 位置ベクトルの考え方を理解し、線分の内分点や外分点が表現できる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 位置ベクトルの考え方を活用して図形の性質を証明できる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 直線や線分をベクトルを用いて表現できる。	○			B	
	第2章 空間のベクトル	<input type="checkbox"/> 空間における点の表し方を理解し、空間図形の中で、ベクトルの和、差、実数倍を理解し、計算や図示ができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 空間ベクトルの成分表示が平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し、成分表示されたベクトルの様々な演算を行うことができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 位置ベクトルの考え方が平面ベクトルの場合と同じことを理解し、一意性や内積を用いて図形の性質を証明できる。		○		B	
<input type="checkbox"/> 様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。				○	D		
<input type="checkbox"/> 座標空間において。平面の方程式や球面の方程式が求められる。		○			B		
5	第3章 複素数平面	<input type="checkbox"/> 1つの複素数が複素数平面上の一点を表すことを理解し、2点間の距離の計算や、共役複素数、複素数の和、差、実数倍の図形的意味を理解している。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 複素数を極形式で表し、積、商を計算し、複素数平面上での積や商の意味を理解している。	○			B	
		<input type="checkbox"/> ド・モアブルの定理を理解し、複素数のn乗やn乗根を求めることができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 複素数平面上で内分点や外分点、1点についての回転を複素数を用いて表したり、半直線のなす角を求めたりすることができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 図形の問題を複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 複素数の方程式について図形的な意味を考えたり、考察したりすることができる。		○		B	
	第4章 式と曲線	<input type="checkbox"/> 放物線、楕円、双曲線の焦点や準線、標準形について理解し、概形を書くことができる。	○			C	

	1. 2次曲線	<input type="checkbox"/> 2次曲線と直線の共有点(接点)を2次方程式の実数解を利用して求めることができる。また、2次曲線の接線の方程式の一般形を用いて接線を求めることができる。	<input type="radio"/>			C	
	2. 媒介変数表示と極座標	<input type="checkbox"/> 曲線が媒介変数表示される仕組みを理解し、放物線、楕円、双曲線、サイクロイドの媒介変数表示を用いることができる。	<input type="radio"/>			B	
		<input type="checkbox"/> 2次曲線を離心率をもとに統一的にとらえることができる。		<input type="radio"/>		B	
		<input type="checkbox"/> 極座標による表示について理解し、平面上の図形についてx, yの方程式と極方程式を相互に変換できる。	<input type="radio"/>			B	
		<input type="checkbox"/> 媒介変数表示や局方程式で表された曲線をコンピュータで描き考察することに興味関心を持つ。			<input type="radio"/>	A	
6	<数学Ⅲ>	<input type="checkbox"/> 分数関数のグラフを漸近線を求めてかくことができ、グラフを利用して分数不等式を解くことができる。	<input type="radio"/>			C	
第1章 関数	<input type="checkbox"/> 無理関数のグラフをかくことができ、グラフを利用して無理不等式を解くことができる。	<input type="radio"/>				C	
	<input type="checkbox"/> 逆関数や合成関数を求める手順を理解し、種々の関数の逆関数や合成関数を求め、そのグラフを書くことができる。	<input type="radio"/>				B	
	第2章 極限	<input type="checkbox"/> 数列の極限の定義を理解し、簡単な数列の収束発散を調べ、極限を求めることができる。	<input type="radio"/>			C	
1. 数列の極限	<input type="checkbox"/> はさみうちの原理を用いて極限を考察することができる。		<input type="radio"/>			C	
	<input type="checkbox"/> 無限等比数列の収束条件を理解し、それを用いて様々な数列の極限を求めることができる。	<input type="radio"/>				B	
	<input type="checkbox"/> 無限級数の表記について理解し、収束・発散を調べられる。特に等比無限級数について公比の値で収束発散が調べられる。	<input type="radio"/>				B	
	<input type="checkbox"/> 等比無限級数の知識を利用して、様々な問題を考察することができる。		<input type="radio"/>			B	
	2. 関数の極限	<input type="checkbox"/> $x \rightarrow a, \pm\infty$ のとき、関数の式を適切に変形して関数の極限を調べることができる。	<input type="radio"/>				C
		<input type="checkbox"/> 関数の右側、左側極限について考察することができる。		<input type="radio"/>			B
		<input type="checkbox"/> はさみうちの原理を用いて極限を求める方法に、興味関心をもつ。			<input type="radio"/>		D
		<input type="checkbox"/> 指数関数、対数関数、三角関数の極限について考察できる。	<input type="radio"/>				C
<input type="checkbox"/> 定義に基づいて様々な関数の連続不連続を判定ことができ、連続関数の性質を理解している。		<input type="radio"/>				B	
7	第3章 微分法	<input type="checkbox"/> 微分可能性と連続性の関係を理解しており、定義に基づいて微分することができる。	<input type="radio"/>			B	
1. 導関数	<input type="checkbox"/> xの有理数乗の導関数の計算ができ、積、商、合成関数、逆関数の微分法を導関数の計算に利用できる。	<input type="radio"/>				C	
	2. いろいろな関数の導関数	<input type="checkbox"/> 三角関数、対数関数、指数関数を含む関数の導関数が計算でき、 e^x について理解している。	<input type="radio"/>			C	
<input type="checkbox"/> 対数微分法を利用して複雑な関数の微分について考察できる。			<input type="radio"/>			B	

期末試験

中間試験

	□種々の関数の高次導関数を求めることができる。	○			B	験
	□第 n 次導関数の式の形を予想しようとする。			○	A	
	□陰関数の微分を利用したり、媒介変数で表示された関数の導関数を計算することができる。	○			B	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲		
			知識技能	思考判断表現	態度				
8 9 10	第4章 微分法的应用 1. 導関数の应用	<input type="checkbox"/> 接線の方程式や法線の方程式を求めることができる。	<input type="radio"/>			C	中間試験		
		<input type="checkbox"/> 平均値の定理を理解し、不等式の証明などに用いることができる。	<input type="radio"/>			B			
	2. いろいろな应用	<input type="checkbox"/> 導関数の符号と関数の増減の関係を理解し、導関数を利用して関数の増減を調べたり、極大・極小値や最大・最小値を求めることができる。	<input type="radio"/>			C			
		<input type="checkbox"/> 曲線の凹凸と第2次導関数の符号の関係を理解し、変曲点が求められる。	<input type="radio"/>			C			
		<input type="checkbox"/> 関数の増減、凹凸、変曲点、漸近線、定義域、 $x \rightarrow \pm\infty$ のときの状態などを調べてグラフをかくことができる。	<input type="radio"/>			B			
		<input type="checkbox"/> 関数の様々な形に興味をもち、様々な方法でそれを調べようとする。			<input type="radio"/>	D			
		<input type="checkbox"/> 第2次導関数と極値との関係を理解し、第2次導関数を用いて極値を求めることができる。	<input type="radio"/>			C			
		<input type="checkbox"/> 導関数を利用して不等式を証明することができる。	<input type="radio"/>			B			
	第5章 積分法とその応用 1. 不定積分 2. 定積分 3. 積分法的应用	1. 不定積分	<input type="checkbox"/> 種々の関数の不定積分を計算することができ、関数の形によっては置換積分法や、部分積分法を利用して不定積分を求めることができる。	<input type="radio"/>				C	期末試験
			<input type="checkbox"/> 種々の関数の定積分を計算することができ、関数の形によっては置換積分法や、部分積分法を利用して定積分を求めることができる。	<input type="radio"/>				C	
2. 定積分		<input type="checkbox"/> 偶関数、奇関数の定積分の性質を理解し、利用できる。	<input type="radio"/>			B			
		<input type="checkbox"/> 上端あるいは下端が x である定積分で表された関数の取り扱い方を理解している。	<input type="radio"/>			C			
		<input type="checkbox"/> 曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形で近似する考え方で、定積分と和の極限との関係を考察することができる。			<input type="radio"/>	B			
		<input type="checkbox"/> 関数の大小とその関数の定積分の大小との関係について理解している。	<input type="radio"/>			C			
		<input type="checkbox"/> 複雑な定積分を置換積分や部分積分を用いて計算する方法に興味を持ち取り組もうとする。			<input type="radio"/>	D			
		3. 積分法的应用	<input type="checkbox"/> 直線や曲線で囲まれた部分の面積を定積分で表して求めることができる。	<input type="radio"/>			C		
<input type="checkbox"/> 立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。	<input type="radio"/>				C				

		<input type="checkbox"/> 直線上や座標平面上を運動する点の座標、道のりを定積分を用いて求めることができる。	<input type="radio"/>			B
		<input type="checkbox"/> 定積分を用いて曲線の長さを求めることができる。	<input type="radio"/>			C
11	問題演習 大学入試過去問題	<input type="checkbox"/> 大学入試過去問題に関心をもって取り組んでいる。			<input type="radio"/>	A
12		<input type="checkbox"/> 基本的な公式が理解できている。	<input type="radio"/>			D
		<input type="checkbox"/> 基本的な問題が正確に解答できる。	<input type="radio"/>			D
		<input type="checkbox"/> 最頻出問題が理解でき、反復練習問題が正確に解答できる。	<input type="radio"/>			D
		<input type="checkbox"/> 標準問題が正確に解答できる。		<input type="radio"/>		D

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	問題演習 大学入試過去問題	<input type="checkbox"/> 大学入試過去問題に関心をもって取り組んでいる。			○		
		<input type="checkbox"/> 大学入試過去問題が解ける。		○			

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※ 評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	数学C・数学研究β	単位数	7	履修学年	3	理型 選択
使用教科書	新編 数学C、チャート式解法と演習数学Ⅰ+A, Ⅱ+B (数研出版)					
副教材	「REPEAT 数学C」 (数研出版) 「チャート式解法と演習数学C」 (数研出版) 「リンク数学演習ⅠAⅡBC」 (数研出版) 「共通テスト対策 重要問題演習」 (Learn-s) 「大学入学共通テスト実践問題集 数学ⅠAプレノートHalf」 (数研出版) 「大学入学共通テスト実践問題集 数学ⅡBCプレノートHalf」 (数研出版) 「共通テスト対策 実力完成 直前演習 数学ⅠA」 (Learn-s) 「共通テスト対策 実力完成 直前演習 数学ⅡBC」 (Learn-s)					
学習の到達目標	・平面上のベクトル、空間のベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 ・言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて学習事項を相互に関連させて、数学ⅠAⅡBの学習内容を体系的に理解し、筋道を立てて問題を解決するための数学的な思考力・判断力・表現力及び主体的かつ粘り強く考察・探究していく態度を育成する。					
評価の観点	評価の内容	評価方法				
知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	B C				
思考・判断・表現	論理的に考察する力、方程式を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する力、規則性に着目し、事象を数学的に考察する力、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付ける。また、傾向を推測し判断したり、方法や結果を批判的に考察したりする力、日常や社会の事象を数学化し、問題を解決する力を身に付ける。	B C				
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	A D				
評価方法	A 授業態度 B 定期試験 C 単元テスト D 課題					

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技	B 定期試験	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	50
	C 単元テスト	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	
断 思 考 表 現 判	B 定期試験	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	30
	C 単元テスト	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	
に 主 取 体 り 的 組 に む 学 態 習	A 授業態度	授業に意欲的に取り組む、主体的な態度である	授業に意欲的に取り組んでる	授業に意欲的に取り組んでいない	20
	D 課題	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	

※基準点は、テスト毎の難易度により変動

数学科の育てたい資質能力	
(1)	思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
(2)	探求力：物事を見極め追求し、課題を解決する力
(3)	主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
小山西高校の育てたい資質能力	
「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」	

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	<数学C> 第1章 平面上のベクトル 1. ベクトルとその演算 2. ベクトルと平面図形	□有効線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解するとともに、ベクトルの和、差、実数倍の定義を理解し、計算や図示ができる。	○			C	中間試験
		□ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、成分表示されたベクトルの様々な演算を行うことができる。	○			C	
		□ベクトルの内積の定義を理解し、2つのベクトルのなす角や三角形の面積を求めたり、垂直条件を利用できる。	○			B	
		□位置ベクトルの考え方を理解し、線分の内分点や外分点が表現できる。	○			C	
		□位置ベクトルの考え方を活用して図形の性質を証明できる。		○		B	
		□様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。			○	D	
		□直線や線分をベクトルを用いて表現できる。	○			B	
5	第2章 空間のベクトル	□空間における点の表し方を理解し、空間図形の中で、ベクトルの和、差、実数倍を理解し、計算や図示ができる。	○			C	
		□空間ベクトルの成分表示が平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し、成分表示されたベクトルの様々な演算を行うことができる。	○			C	
		□位置ベクトルの考え方が平面ベクトルの場合と同じことを理解し、一意性や内積を用いて図形の性質を証明できる。		○		B	
		□様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。			○	D	
		□座標空間において。平面の方程式や球面の方程式が求められる。	○			B	
6	チャート式解法と演習 数学Ⅰ+A, Ⅱ+B	□入試問題に関心を持って取り組んでいる。	○			A	
	リンク数学演習ⅠAⅡBC	□定義を理解している。	○			C	
	共通テスト対策 重要問題演習	□定理・公式を導くことができる。	○			A	
		□用語の意味を理解している。	○			C	
		□基本レベルの入試問題が解ける。	○			B	
		□分野別の入試問題に関心を持って取り組んでいる。			○	A	
		□定義・用語の意味を理解し、定理・公式を活用することができる。		○		C	

7	<input type="checkbox"/> 分野別の入試問題が解ける。		○		B	期末 試験
	<input type="checkbox"/> 共通テスト対策の問題に関心を持って取り組んでいる。			○	A	
	<input type="checkbox"/> 問題の特徴をとらえて、数学的に考えることができる。		○		B	
	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けて構想（見通し）を立て、問題の本質を見出すことができる。		○		B	
	<input type="checkbox"/> 的確に処理し、手順にしたがって計算することができる。	○			C	
	<input type="checkbox"/> 解決過程を振り返り、得られた結果の意味を考察することができる。		○		B	
	<input type="checkbox"/> 得られた結果を他の問題に活用したり、一般化したりすることができる。		○		B	
	<input type="checkbox"/> 自分の考えを数学的な表現を用いて説明したり、他者の数学的な表現を理解したりすることができる。		○		D	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	チャート式解法と演習 数学Ⅰ+A, Ⅱ+B	<input type="checkbox"/> 分野別の入試問題に関心を持って取り組んでいる。			○	A	中間試験
		リンク数学演習ⅠAⅡBC	<input type="checkbox"/> 定義・用語の意味を理解し、定理・公式を活用することができる。	○			
9	共通テスト対策 重要問題演習	<input type="checkbox"/> 分野別の入試問題が解ける。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 共通テスト対策の問題に関心を持って取り組んでいる。			○	A	
10		<input type="checkbox"/> 問題の特徴をとらえて、数学的に考えることができる。		○		B	
11	大学入学共通テスト実践 問題集 数学ⅠAプレノートHalf	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けて構想（見通し）を立て、問題の本質を見出すことができる。		○		B	
12	大学入学共通テスト実践 問題集 数学ⅡBCプレノートHalf	<input type="checkbox"/> 的確に処理し、手順にしたがって計算することができる。	○			C	
	共通テスト対策 実力完成 直前演習 数学ⅠA	<input type="checkbox"/> 解決過程を振り返り、得られた結果の意味を考えることができる。		○		B	
	共通テスト対策 実力完成 直前演習 数学ⅡBC	<input type="checkbox"/> 得られた結果を他の問題に活用したり、一般化したりすることができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 自分の考えを数学的な表現を用いて説明したり、他者の数学的な表現を理解したりすることができる。		○		D	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	大学入学共通テスト実践問題集 数学ⅠAプレノートHalf	<input type="checkbox"/> 問題の特徴をとらえて、数学的に考えることができる。		○		A	
		<input type="checkbox"/> 問題解決に向けて構想（見通し）を立て、問題の本質を見出すことができる。		○		A	
	大学入学共通テスト実践問題集 数学ⅡBCプレノートHalf	<input type="checkbox"/> 的確に処理し、手順にしたがって計算することができる。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 解決過程を振り返り、得られた結果の意味を考察することができる。		○		D	
	<共通テスト後>	<input type="checkbox"/> 得られた結果を他の問題に活用したり、一般化したりすることができる。		○		D	
		<input type="checkbox"/> 自分の考えを数学的な表現を用いて説明したり、他者の数学的な表現を理解したりすることができる。		○		D	
2	過去の大学入試問題演習	<input type="checkbox"/> 大学入試問題に関心を持って取り組んでいる。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 記述式の試験に対応する力を身に付ける。		○		D	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	数学C・数学研究α	単位数	4	履修学年	3	文型 選択
使用教科書	新編 数学C、チャート式解法と演習数学Ⅰ+A, Ⅱ+B (数研出版)					
副教材	「REPEAT 数学C」(数研出版)「チャート解法と演習 数学C」(数研出版) 「リンク数学演習ⅠAⅡBC」(数研出版) 「ベーシックスタイル数学演習ⅠAⅡBC」(数研出版) 「共通テスト対策 基礎徹底演習」(Learn-s) 「大学入学共通テスト実践問題集 数学ⅠAプレノートHalf」(数研出版) 「大学入学共通テスト実践問題集 数学ⅡBCプレノートHalf」(数研出版)					
学習の到達目標	・平面上のベクトル、空間のベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 ・言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて学習事項を相互に関連させて、数学ⅠAⅡBの学習内容を体系的に理解し、筋道を立てて問題を解決するための数学的な思考力・判断力・表現力及び主体的かつ粘り強く考察・探究していく態度を育成する。					
評価の観点	評価の内容			評価方法		
知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。			B C		
思考・判断・表現	論理的に考察する力、方程式を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する力、規則性に着目し、事象を数学的に考察する力、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に着ける。また、傾向を推測し判断したり、方法や結果を批判的に考察したりする力、日常や社会の事象を数学化し、問題を解決する力を身に着ける。			B C		
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			A D		
評価方法	A 授業態度 B 定期試験 C 単元テスト D 課題					

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	B 定期試験	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	50
	C 単元テスト	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	
断 思 考 表 現 判	B 定期試験	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	30
	C 単元テスト	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	
に 主 取 体 り 的 組 に む 学 態 習	A 授業態度	授業に意欲的に取り組む、主体的な態度である	授業に意欲的に取り組んでる	授業に意欲的に取り組んでいない	20
	D 課題	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	

※基準点は、テスト毎の難易度により変動

数学科の育てたい資質能力

- (1) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (2) 探求力：物事を見極め追求し、課題を解決する力
- (3) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
4	<数学C> 第1章 平面上のベクトル 1. ベクトルとその演算 2. ベクトルと平面図形	□有効線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解するとともに、ベクトルの和、差、実数倍の定義を理解し、計算や図示ができる。	○			C	中間試験	
		□ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、成分表示されたベクトルの様々な演算を行うことができる。	○			C		
		□ベクトルの内積の定義を理解し、2つのベクトルのなす角や三角形の面積を求めたり、垂直条件を利用できる。	○			B		
		□位置ベクトルの考え方を理解し、線分の内分点や外分点が表現できる。	○			C		
		□位置ベクトルの考え方を活用して図形の性質を証明できる。		○		B		
		□様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。			○	D		
		□直線や線分をベクトルを用いて表現できる。	○			B		
	5	第2章 空間のベクトル	□空間における点の表し方を理解し、空間図形の中で、ベクトルの和、差、実数倍を理解し、計算や図示ができる。	○				C
			□空間ベクトルの成分表示が平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し、成分表示されたベクトルの様々な演算を行うことができる。	○				C
			□位置ベクトルの考え方が平面ベクトルの場合と同じことを理解し、一意性や内積を用いて図形の性質を証明できる。		○			B
			□様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。			○		D
			□座標空間において、平面の方程式や球面の方程式が求められる。	○				B
6	チャート式解法と演習 数学 I + A, II + B	□入試問題に関心を持って取り組んでいる。	○			A		
	リンク数学演習 I A II B C	□定義を理解している。	○			C		
	ベーシックスタイル数学演習 I A II B C	□定理・公式を導くことができる。	○			A		
	共通テスト対策 基礎徹底演習	□用語の意味を理解している。	○			C		
		□基本レベルの入試問題が解ける。	○			B		
		□分野別の入試問題に関心を持って取り組んでいる。			○	A		
	□定義・用語の意味を理解し、定理・公式を活用することができる。		○		C			
	□分野別の入試問題が解ける。		○		B			

7	□共通テスト対策の問題に関心を持って取り組んでいる。			○	A	期末 試験
	□問題の特徴をとらえて、数学的に考えることができる。		○		B	
	□問題解決に向けて構想（見通し）を立て、問題の本質を見出すことができる。		○		B	
	□的確に処理し、手順にしたがって計算することができる。	○			C	
	□解決過程を振り返り、得られた結果の意味を考えることができる。		○		B	
	□得られた結果を他の問題に活用したり、一般化したりすることができる。		○		B	
	□自分の考えを数学的な表現を用いて説明したり、他者の数学的な表現を理解したりすることができる。		○		D	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	チャート式解法と演習 数学Ⅰ+A, Ⅱ+B	<input type="checkbox"/> 分野別の入試問題に関心を持って取り組んでいる。			○	A	中間試験
		<input type="checkbox"/> 定義・用語の意味を理解し、定理・公式を活用することができる。	○			C	
9	ベーシックスタイル数学演習ⅠAⅡBC	<input type="checkbox"/> 分野別の入試問題が解ける。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 共通テスト対策の問題に関心を持って取り組んでいる。			○	A	
10	共通テスト対策 基礎徹底演習	<input type="checkbox"/> 問題の特徴をとらえて、数学的に考えることができる。		○		B	
11	大学入学共通テスト実践 問題集数学ⅠA, ⅡBCプレ ノートHalf	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けて構想（見通し）を立て、問題の本質を見出すことができる。		○		B	
12		<input type="checkbox"/> 的確に処理し、手順にしたがって計算することができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 解決過程を振り返り、得られた結果の意味を考えることができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 得られた結果を他の問題に活用したり、一般化したりすることができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 自分の考えを数学的な表現を用いて説明したり、他者の数学的な表現を理解したりすることができる。		○		D	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	大学入学共通テスト実践問題集数学 I A, II BC プレノートHalf	<input type="checkbox"/> 問題の特徴をとらえて、数学的に考えることができる。		○		A	
		<input type="checkbox"/> 問題解決に向けて構想（見通し）を立て、問題の本質を見出すことができる。		○		A	
		<input type="checkbox"/> 的確に処理し、手順にしたがって計算することができる。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 解決過程を振り返り、得られた結果の意味を考えることができる。		○		D	
		<input type="checkbox"/> 得られた結果を他の問題に活用したり、一般化したりすることができる。		○		D	
		<input type="checkbox"/> 自分の考えを数学的な表現を用いて説明したり、他者の数学的な表現を理解したりすることができる。		○		D	
2		<input type="checkbox"/> 大学入試問題に関心を持って取り組んでいる。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 記述式の試験に対応する力を身に付ける。		○		D	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※ 評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	物理	単位数	4	履修学年	3	理系選択
使用教科書	物理（数研出版）					
副教材	リードα 物理基礎・物理（数研出版） 新課程版 フォトサイエンス物理図録（数研出版）					

学習の到達目標	<p>物理的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した物理の基本的な概念や原理・法則が正しく理解できたか。 ・得た知識や理解したことを，その後の学習や生活の中で応用しようとしているか。 	A B C
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を遂行するにあたって，科学的・論理的に思考し，判断しているか。 ・課題の設定理由，研究過程，結果およびそこから導き出した自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく相手に伝えることが出来たか。また発表にはどのような工夫がなされたか。 	A B C E
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象（特に物理的な）に対して興味・関心を高めているか。 ・意欲的に課題を追求する態度を身につけているか。 	B C D
評価方法	A 定期試験・小テスト B ワークシート・ノート等の提出物 C 授業でのグループ活動・発表 D 授業での学習に対する意欲や態度 E プレゼンテーション、課題研究での内容	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が60%～79%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が60%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が30～59%	知識・技能をはかる問題の正答率が29%以下	
思考・現判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が20～39%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が19%以下	30
	発表	課題の設定理由、研究過程、結果およびそこから導き出した自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく相手に伝えている	発表に向かう態度が良好で、間違いを隠せず積極的に表現している	積極的に発表を行おうとしていない	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	20
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかりと取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	

理科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 探究力：物事を見極め追究し、課題を解決する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	第3編 波	<input type="checkbox"/> 波の伝わり方とその表し方について理解している。	○			A	中間試験
	第1章 波の性質	<input type="checkbox"/> 波の干渉と回折について理解している。			○	A	
5	第2章 音	<input type="checkbox"/> 音の干渉と回折について理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 音のドップラー効果について理解している。			○	B	
6	第3章 光	<input type="checkbox"/> 光の伝わり方について理解している。			○	A	期末試験
		<input type="checkbox"/> 光の回折と干渉に関する実験などを行い、光と回折と干渉を光波の性質と関連付けて理解している。		○	○	C	
7	第4編 電気と磁気	<input type="checkbox"/> 電荷が相互に及ぼし合う力や電界の表し方を理解している。		○		A	
	第1章 電場	<input type="checkbox"/> 電界と電位との関係を静電気力による位置エネルギーと関連付けて理解している。	○	○		D	
	第2章 電流	<input type="checkbox"/> コンデンサーの性質を理解すると共に電気容量を電界や電位差と関連付けて理解している。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 電気回路に関する実験等を行い、電気回路における基本的な法則を理解している。	○	○	○	B	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度		
8	第3章 電流と磁場	<input type="checkbox"/> 電流がつくる磁界の様子を理解している。			○	A	中間試験
9		<input type="checkbox"/> 電流が磁界から受ける力を理解している。	○	○		D	
10	第4章 電磁誘導と電磁波	<input type="checkbox"/> 電磁誘導に関する実験等を行い、磁束の変化と誘導起電力の向きや大きさとの関係を見いだして理解している。	○	○	○	B	
		<input type="checkbox"/> 電磁誘導の法則や交流の発生について理解している。	○	○	○	D	
		<input type="checkbox"/> 電磁波の性質とその利用を理解している。	○			C	
11	第5編	<input type="checkbox"/> 電子の電荷と質量について理解している。		○	○	D	期末試験
	第1章 電子と光	<input type="checkbox"/> 電子や光の粒子性と波動性について理解している。	○			A	
12	第2章 原子と原子核	<input type="checkbox"/> 原子の構造及びスペクトルと電子のエネルギー準位との関係について理解している。	○	○		A	
		<input type="checkbox"/> 原子核の構成、原子核の崩壊及び核反応について理解している。			○	D	
	共通テスト対策	<input type="checkbox"/> 素粒子の存在について知る。	○			E	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度		
1	私大・国公立大2次対策	□総合問題や実践問題に取り組み，理解を深めている。	○			A	
2							

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	化学(理型)	単位数	4	履修学年	3	必修
使用教科書	高等学校 化学 (第一学習社)					
副教材	セミナー化学 (第一学習社) スクエア最新図説化学 (第一学習社) サンダイヤル化学の徹底暗記&ドリル (啓林館)					

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解しているか。 ・身に付けた知識を、その後の学習や生活の中で応用しようとしているか。 	A D E
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しているか。 	A C D E
観察・実験の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得しているか。 ・実験、観察の過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けているか。 	B C
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探究しようとしているか。 ・科学的な見方や考え方を身に付けているか。 	A B E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 実験やグループ活動での取り組み C プレゼンテーション発表・自己評価・相互評価 D 定期試験・小テスト E 課題等の提出	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
技能・知識	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が60%~79%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40~69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が50%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30~49%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が29%以下	30
	発表	課題の設定理由、研究過程、結果およびそこから導き出した自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく相手に伝えている	発表に向かう態度が良好で、間違いを臆せず積極的に表現している	積極的に発表を行おうとしていない	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	20
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	

理科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 探究力：物事を見極め追究し、課題を解決する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	化学 第 I 章 物質の状態 第 4 節 溶液の性質	<input type="checkbox"/> 溶解の仕組みを理解している。	○			A	中間試験
		<input type="checkbox"/> 溶解度を溶解平衡と関連付けて理解している。		○		E	
		<input type="checkbox"/> 溶液の濃度計算を確実に身に付けている。	○		○	D	
		<input type="checkbox"/> 身近な現象を通して、溶媒と溶液の沸点や凝固点の変化を理解している。	○		○	A	
		<input type="checkbox"/> コロイド溶液の性質を理解している。	○	○		B	
5	第 II 章 物質の変化と平衡 第 1 節 化学反応と熱・光	<input type="checkbox"/> 化学反応には熱の発生や吸収が伴い、エンタルピー変化で表されることを理解している。	○	○		A	
		<input type="checkbox"/> 熱化学方程式を正しく書くことができる。	○		○	B	
		<input type="checkbox"/> ヘスの法則を理解している。	○	○	○	B	
		<input type="checkbox"/> 結合エネルギーを理解し、扱うことができる。	○	○		E	
		<input type="checkbox"/> 化学反応には光の出入りが伴うものがあることを理解している。	○			A	
		<input type="checkbox"/> エントロピーを理解している。			○	D	
6	第 3 節 化学反応の速さ	<input type="checkbox"/> 反応速度の表し方や反応する物質の濃度、圧力、温度との関係を理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 触媒の働きを活性化エネルギーに基づいて説明することができる。		○		D	
		<input type="checkbox"/> 化学反応の速さについて、科学的に探究しようとしている。			○	A	
	第 4 節 化学平衡	<input type="checkbox"/> 可逆反応、不可逆反応、化学平衡や平衡定数の意味を理解している。	○			D	期末試験
		<input type="checkbox"/> 各種実験データから、濃度、圧力、温度と平衡移動の方向を関連付けて考察できる。		○		D	
		<input type="checkbox"/> 化学平衡の学習に主体的に関わり、見通しをもって科学的に探究しようとしている。			○	B	
7	第 5 節 電離平衡	<input type="checkbox"/> 酸・塩基の電離平衡における電離定数、電離度、イオン濃度の関係や溶解度、溶解度積を理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 各種実験データから、緩衝液の作用を化学平衡と関連付けて考察し、報告・発表している。		○		D	

		□電離平衡の学習に主体的に関わり、見通しや検証を視野に入れて科学的に探究しようとしている。			○	C	
(備考)							

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	第Ⅲ章 無機物質	<input type="checkbox"/> 元素の分類，典型元素の性質が周期表に基づいて整理できていることを理解している。	○			D	中間試験
	第1節 周期表と元素の性質	<input type="checkbox"/> 無機物質について観察，実験を行い，規則性を見いだしたり，さまざまな事象が生じる要因や仕組みを科学的に考察することができる。		○		B	
9	第2節 非金属元素	<input type="checkbox"/> 周期表と元素の性質についての学習に主体的に関わり，見通しや検証を行い，科学的に探究しようとしている。			○	E	
		<input type="checkbox"/> 無機物質を日常生活および化学工業に関連付けて理解しようとしている。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 無機物質と化学工業との関係をさまざまな観点で捉え，科学的に判断・考察している。		○		B	
9	第3節 典型金属元素	<input type="checkbox"/> 非金属元素に関する学習に主体的に関わり，見通しをもって科学的に探究しようとしている。			○	A	
		<input type="checkbox"/> アルカリ金属，アルカリ土類金属の単体や化合物についての性質や反応に関する基本的な概念を理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 無機物質の性質や反応性などを，元素の周期表と関連付けて考察し，説明することができる。		○		E	
		<input type="checkbox"/> 無機物質について観察，実験を行い，規則性を見いだしたり，さまざまな事象が生じる要因や仕組みを科学的に考察することができる。		○		B	
9	第4節 遷移元素	<input type="checkbox"/> 典型元素に関する学習に主体的に関わり，見通しをもって科学的に探究しようとしている。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 典型元素と遷移元素の特徴の違いを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 遷移元素の単体や化合物について，性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則を理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 無機物質について観察，実験を行い，規則性を見いだしたり，さまざまな事象が生じる要因や仕組みを科学的に考察することができる。		○		B	
10	第Ⅳ章 有機化合物	<input type="checkbox"/> 遷移元素に関する学習に主体的に関わり，見通しをもって科学的に探究しようとしている。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 有機化合物の主な特徴や分類の仕方，構造異性体を理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 代表的な官能基の性質や構造を決定するための過程を理解している。	○			D	
	第1節 有機化合物の特徴	<input type="checkbox"/> 有機化合物の構造式を決定するための過程を原理と関連付けて説明できる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 有機化合物の特徴に関する学習に主体的に関わり，見通しをもって科学的に探究しようとしている。			○	E	
		第2節 脂肪族炭化水素	<input type="checkbox"/> 分子模型などを用いて炭化水素の構造を学習し，鎖状や環状など多様な構造があることを理解している。	○			D
			<input type="checkbox"/> 飽和炭化水素，不飽和炭化水素の構造と性質と反応性を関連付けて理解している。	○			D
<input type="checkbox"/> 構造式からその性質や反応性を考察，判断することができる。			○		B		
		<input type="checkbox"/> 脂肪族炭化水素に関する学習に主体的に関わり，見通しをもって科学的に探究しようとしている。			○	A	

11	第3節 酸素を含む 脂肪族化合物	<input type="checkbox"/> 分子模型などを用いて炭化水素の構造を学習し、鎖状や環状など多様な構造があることを理解している。	○			D
		<input type="checkbox"/> 飽和炭化水素，不飽和炭化水素の構造と性質と反応性を関連付けて理解している。	○			D
		<input type="checkbox"/> 構造式からその性質や反応性を考察，判断することができる。		○		B
		<input type="checkbox"/> 脂肪族炭化水素に関する学習に主体的に関わり、見通しをもって科学的に探究しようとしている。			○	A
	第4節 芳香族 化合物	<input type="checkbox"/> 芳香族炭化水素の構造と性質，反応性を関連付けて理解している。	○			D
		<input type="checkbox"/> 有機化合物の性質が、官能基によって特徴づけられることやフェノール類，アミン類など有機化合物の相互関連性について理解している。	○			D
		<input type="checkbox"/> 構造式からその性質や反応性を考察，判断することができる。		○		B
		<input type="checkbox"/> 芳香族化合物に関する学習に主体的に関わり、見通しをもって科学的に探究しようとしている。			○	A
12	第V章 高分子化合物	<input type="checkbox"/> 高分子化合物の分類，合成及び特徴を理解している。	○			D
		第1節 高分子 化合物	<input type="checkbox"/> 糖の種類と構造，タンパク質の高次構造や性質，特徴について理解している。	○		
	<input type="checkbox"/> 単糖・二糖・多糖の性質を、観察，実験を通して考察できる。			○		B
	<input type="checkbox"/> α アミノ酸とタンパク質の性質を、観察，実験を通して考察できる。			○		B
	<input type="checkbox"/> 高分子化合物に関する学習に主体的に関わり、見通しをもって科学的に探究しようとしている。				○	E
	第2節 天然高分子 化合物	<input type="checkbox"/> 遺伝情報を担う核酸の構造と複製の仕組みを理解している。	○			D
		<input type="checkbox"/> 酵素の働きについて、観察，実験の過程から自らの考えを導き出し、報告書を作成したり発表したりすることができる。		○		C
		<input type="checkbox"/> 天然高分子化合物に関する学習に主体的に関わり、見通しをもって科学的に探究しようとしている。			○	E
	第3節 合成高分子 化合物	<input type="checkbox"/> 合成高分子化合物の製法や構造，性質，用途を理解し、生活に応用しようとしている。	○			D
		<input type="checkbox"/> 合成高分子化合物の構造を基に性質を考察し、用途に適する素材を選択することができる。		○		E
<input type="checkbox"/> 合成高分子化合物に関する学習に主体的に関わり、見通しをもって科学的に探究しようとしている。				○	A	
	大学入試共通テスト対策					

期末試験

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識 技能	思考 判断 表現	態度		
1 2	私大・国公立大学2次 対策	□総合問題や実践問題に取り組み、理解を深めている。	○			A	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	生物	単位数	4	履修学年	3	理系選択
使用教科書	生物（数研出版）					
副教材	セミナー生物（第一学習社） ニューステージ新生物図表（浜島書店）					

学習の到達目標	<p>ア 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>ウ 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解，実験操作の基本的な技術の習得ができています。	A D E
思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して，課題を解決できる思考力・判断力・表現力を身につけている。	B C D E
主体的に学習に取り組む態度	「知識・技能の習得」や「思考力・判断力・表現力を身につける過程」において，粘り強く学習に取り組むことができる。また，自ら学習を調整していくことができる。	A B E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 実験やグループワークでの取り組み C プレゼンテーション発表・自己評価・相互評価 D 定期試験・小テスト E 課題等の提出	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
技能・知識	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が40%～79%	各小テストでの平均点が39%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が30～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が29%以下	
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が29%以下	30
	プレゼンテーション・レポート	十分に準備をして臨み、表現力も豊かである 目的・本質を捉えたレポートになっている	内容は良いが、思うような表現ができていない レポートが感想になっている	準備が不十分である 期日までに未提出である	
関心・意欲・態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	20
	実験・探究活動等グループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	
		レポート課題の目的を理解し、結果や知見から考察ができ、本質を捉えることができる	行った試技から、現象を捉え、データとしてまとめられている	試技の感想に留まるなど、活動の本質が理解されていない	

理科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 探究力：物事を見極め、追究し、課題を解決する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4 5 6 7	第4編 生物の環境応答						中間試験
	5章 動物の反応と行動	<input type="checkbox"/> 受容器の種類によって、刺激を受けとる仕組みがそれぞれ異なることを理解している。	○			D	
	1節 刺激の受容	<input type="checkbox"/> 視細胞の分布に関する資料に基づいて盲斑や黄斑の存在に気付くことができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> ヒトの視覚経路の構造について理解し視神経を切断した際の見え方と関連づけて説明することができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 刺激の受容に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。			○	A	
	2節 ニューロンとその興奮	<input type="checkbox"/> ニューロンの興奮が細胞膜で生じる電気的な変化であること、チャネル・ポンプの構造や働きを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 軸索の刺激実験から、ニューロンの興奮に見られる性質を見いだすことができる。		○		D	
		<input type="checkbox"/> 神経筋標本の刺激実験から、伝導や伝達のしくみの説明や要する時間の計算を行うことができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> ニューロンの興奮に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。			○	A	
	3節 情報の統合	<input type="checkbox"/> ヒトの神経系の構造、脳の構造とそれぞれの部位が持つ働きについて理解している 起こることを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> さまざまな動物の脳を比較し、脳の構造の違いやそれに伴う行動の違いを理解している。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 膝蓋腱反射の実験から、反射が無意識のうちにかかる理由を、興奮の伝達経路と関連付けながら説明することができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 神経系や情報の統合に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A	
	4節 刺激への反応	<input type="checkbox"/> 効果器である筋肉の構造について理解し、筋肉が神経系から伝達してきた刺激を受け取って収縮する仕組みを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 死後硬直のしくみについて、筋収縮のしくみに着目しながら説明することができる。		○		C	
	<input type="checkbox"/> 刺激に対する生物の反応に関心を持ち主体的に学習に取り組むことができる。			○	A		
5節 動物の行動	<input type="checkbox"/> 動物の行動は、遺伝的にプログラムされた行動と、経験によって変化する行動によって形成されることを理解する。	○			D		
	<input type="checkbox"/> 試行錯誤学習を実際に体験し、ヒトの試行錯誤による学習効果についてまとめることができる。		○		D		
	<input type="checkbox"/> ショウジョウバエの求愛行動が、雄と雌の互いの行動によって連鎖的に進行することを、雌雄の神経回路の違いと関連付けながら説明できる。		○		D		

		<input type="checkbox"/> 動物の行動に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A
6章 植物の環境応答		<input type="checkbox"/> 植物は周囲の環境の変化を感知して、その環境に応答することを理解している。	○			D
1節 植物の生活と植物ホルモン		<input type="checkbox"/> 環境からの情報伝達に、植物ホルモンが働いていることを理解する。	○			B
		<input type="checkbox"/> エチレンという植物ホルモンが、空气中を拡散していることを確かめるために、どのような実験を行えばよいか考え、説明することができる。		○		C
		<input type="checkbox"/> 植物の生活と植物ホルモンの関係性に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A
2節 発芽の調節		<input type="checkbox"/> 植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠や発芽をするしくみや意義を理解している。	○			D
		<input type="checkbox"/> 光発芽種子の発芽条件と光環境（波長）を関連付けて、光発芽種子の利点を見い出すことができる。		○		B
		<input type="checkbox"/> 環境による発芽の調節に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E
3節 成長の調節		<input type="checkbox"/> 植物の成長が光や重力によって調節されており、そこに植物ホルモンが関係することを理解している。	○			D
		<input type="checkbox"/> 光や重力の影響で屈曲する理由について考え、説明することができる。		○		B
		<input type="checkbox"/> 植物が重力方向を感知できなくなった場合、自然界での成長にどのような不都合が生じるのかを考え、説明することができる。		○		C
		<input type="checkbox"/> 成長の調節に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E
4節 器官の分化と		<input type="checkbox"/> 植物は、根・茎・葉などの器官へ分化し、成長していくことを理解している。	○			D
花芽形成の調節		<input type="checkbox"/> 植物の器官の分化は、周囲の環境の変化や成長の段階に応じて調節されていることを理解している。	○			D
		<input type="checkbox"/> 花芽の形成が日長によって引き起こされるしくみやその利点について考え、説明することができる。		○		B
		<input type="checkbox"/> 葉で感知された日長の情報がどのように植物体内を伝達されるかを実験データから推測し、説明することができる。		○		B
		<input type="checkbox"/> シロイヌナズナの花の構造を観察し、花の形成におけるホメオティック遺伝子の働きについて説明できる。		○		C
		<input type="checkbox"/> 器官の分化と花芽形成の調節に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A
5節 環境の変化に		<input type="checkbox"/> 植物の水の出入りについて、植物の防御応答について理解している。	○			D
対する応答		<input type="checkbox"/> 常に防御物質を蓄積している植物と、食害を受けてから防御物質を合成する植物を比較し、利点・弱点になる環境を考え、説明することができる。		○		B
		<input type="checkbox"/> 環境の変化に対する応答について関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8・9	第4編 生物の環境応答						中間試験
	6章 植物の環境応答	<input type="checkbox"/> 被子植物の配偶子形成と受精の仕組み並びに種子の形成や果実成熟の仕組みについて理解している。	○			D	
	6節 配偶子形成と受精	<input type="checkbox"/> 裸子植物と比較して、被子植物が行う重複受精にはどのような利点があるのかを考え、説明することができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 植物ホルモンが関わる事例として、種なしブドウのつくり方を理解し、説明することができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 植物とヒトの光刺激に対する受容と反応の仕組みや違い、相違点に気づき、説明することができる。		○		C	
	<input type="checkbox"/> 植物の配偶子形成と被子植物の重複受精に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E		
9	7章 生物群集と生態系	<input type="checkbox"/> 個体群の成長には、個体群密度が関係していること、個体数の変化には、その個体群の年齢構成や年齢ごとの死亡率が影響することを理解している。	○			D	
	1節 個体群の構造と性質	<input type="checkbox"/> 生存曲線のそれぞれの型が有利になる生息環境についてその生物の年齢構成や死亡率と関連させて推測し、説明することができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 標識再捕法で個体数が推定できる理由を、対象となる生物個体群の性質を踏まえて説明することができる。		○		A	
		<input type="checkbox"/> 個体群の構造や性質に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E	
10	2節 個体群内の個体間の関係	<input type="checkbox"/> 群れや縄張りの大きさは、生じる利益・不利益の兼ね合いにより、最適な大きさが存在することを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 個体群内で見られる個体同士の社会的な関係とその利益を理解している。	○				
		<input type="checkbox"/> 最適な群れの大きさを決める要因を理解し、環境に応じた時間の配分率のグラフを読み、説明することができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 群れを形成するアユの体長について、個体群密度との関係を考え、説明することができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 個体群内の個体間の関係について関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E	
11	3節 異なる種の個体群間の関係	<input type="checkbox"/> 生物群集には捕食・被食や種間競争、共生などの種間関係が存在することを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 生態的地位の概念、生態系内で多種の共存を可能にしているしくみを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 3種のゾウリムシ飼育時の個体群密度変化のデータに基づいて、生活要求の違いによって異種個体群が共存できることを見いだすことができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 捕食者の存在の有無を踏まえ、種間競争や耐性に関する実例と関連付けて理解し、説明することができる。		○		D	

11	4節 生態系の物質生産と 物質循環	<input type="checkbox"/> 異なる種の個体群間の関係性に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A
		<input type="checkbox"/> 生産者の物質生産によって生態系内の生物に有機物やエネルギーが供給されることを理解している。	○			D
		<input type="checkbox"/> 生態系では、食物連鎖を通じて物質が循環し、エネルギーが移動していることを理解している。	○			B
		<input type="checkbox"/> 現存量あたりの純生産量が生態系ごとに違うことをデータから理解し、生産構造と関連付けて説明することができる。			○	C
		<input type="checkbox"/> 生態系におけるエネルギー量とエネルギー効率を計算することができ、物質収支の全体像を掴むことができる。	○	○		B
		<input type="checkbox"/> 生態系の物質生産と物質循環に関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。			○	A
11・12	5節 生態系と人間生活	<input type="checkbox"/> 生態系や生物多様性の保全の意義や重要性を理解している。	○			D
		<input type="checkbox"/> 人間活動が生態系に与える影響について、環境形成作用の観点から理解している。	○			B
		<input type="checkbox"/> 生態系の維持と農林水産業の両立について考え、生態系を維持しながら農林水産業を成り立たせるためにどのような工夫が必要なのか説明することができる。			○	C
		<input type="checkbox"/> 生態系の破壊について、資料に基づいて人間活動の影響の度合いを理解し、改善に向けた策を考え、表現することができる。			○	E
		<input type="checkbox"/> 植林活動と海の豊かさの関係について学習したことを基に、資料などにまとめて、自分の言葉で説明することができる。			○	E
		<input type="checkbox"/> 生態系と人間生活に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A

期末試験

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識 技能	思考 判断 表現	態度		
1	私大・国公立大 2 次対策	□総合問題や実践問題に取り組み、 理解を深めている。	○			A	

科目名	理科研究(化学分野)	単位数	2	履修学年	3	文系選択
使用教科書	i版 化学基礎 (啓林館)					
副教材	標準セミナー化学基礎 (第一学習社) サンダイヤル化学基礎の徹底暗記&ドリル (啓林館)					

学習の到達目標	<p>物質とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。 科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	A B C
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。	A B C E
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。	B C D
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 実験やグループ活動での取り組み C プレゼンテーション発表・自己評価・相互評価 D 定期試験・小テスト E 課題等の提出	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
技能・知識	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が60%~79%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40~69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が16~29%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が15%以下	30
	発表	課題の設定理由、研究過程、結果およびそこから導き出した自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく相手に伝えている	発表に向かう態度が良好で、間違いを臆せず積極的に表現している	積極的に発表を行おうとしていない	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	20
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	

理科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 探究力：物事を見極め追究し、課題を解決する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	第2部 物質の変化						期末試験
	第3章 酸化還元反応	<input type="checkbox"/> 電子の授受により、酸化還元反応が説明できることを理解している。	○			D	
	①酸化と還元	<input type="checkbox"/> 参加数を求めることによって、酸化還元反応を区別することができるようになる。		○			
		<input type="checkbox"/> 酸化と還元は同時に起こることに気付いている。			○		
5	②酸化剤と還元剤	<input type="checkbox"/> 酸化還元反応の量的関係を計算により求めることができることを理解している。	○				
		<input type="checkbox"/> 酸化還元反応の化学反応式を、酸化剤・還元剤の働きを示す反応式からつくられるようになっている。		○			
		<input type="checkbox"/> 酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを電子の授受に着目して説明できる。		○			
		<input type="checkbox"/> 酸化還元反応の複雑な化学式も、その元となる反応式と電子の授受を考えることによって完成できる。			○		
6	③金属の酸化還元反応	<input type="checkbox"/> 通常の酸と反応する金属や王水としか反応しない金属など性質の違いを理解している。	○				
		<input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向を理解し、反応性や加工技術など日常生活とのかかわりについても理解している。	○				
		<input type="checkbox"/> 金属と酸の反応に興味を持ち、日常生活における活用を主体的に考えることができる。			○		
7	④酸化還元反応の利用	<input type="checkbox"/> 簡単な電池の仕組みを理解している。	○				
		<input type="checkbox"/> 金属の精錬方法を理解している。	○				
		<input type="checkbox"/> 電池や金属の精錬が、酸化還元反応を利用したものであることに気付くことができる。		○			
		<input type="checkbox"/> 身近にある電池の構造や仕組みに興味を持ち、主体的に学習することができる。			○		

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識 技能	思考 判断 表現	態度		
8)	まとめ 予想模擬テスト	<input type="checkbox"/> 総合問題や実践問題に取り組み、 理解を深めている。	○			A	期 末 試 験

科目名	理科研究（生物分野）	単位数	2	履修学年	3	文型選択
使用教科書	高等学校 改訂 生物基礎 （第一学習社）					
副教材	セミナー 生物基礎 （第一学習社） 新課程版ネオパルノート 生物基礎 （第一学習社） 二訂版 ニューステージ 生物図表 （浜島書店）					

学習の到達目標	<p>ア 日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察・実験に関する基本的な技能を身につける。</p> <p>イ 観察・実験等の体験活動を通して，科学的に探究する力を養う。</p> <p>ウ 生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解，実験操作の基本的な技術の習得ができています。	A D E
思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して，課題を解決できる思考力・判断力・表現力を身につけている。	B C D E
主体的に学習に取り組む態度	「知識・技能の習得」や「思考力・判断力・表現力を身につける過程」において，粘り強く学習に取り組むことができる。また，自ら学習を調整していくことができる。	A B E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 実験やグループワークでの取り組み C プレゼンテーション発表・自己評価・相互評価 D 定期試験・小テスト E 課題等の提出	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
技能・知識	小テスト	各小テストでの平均点が90%以上	各小テストでの平均点が70%~89%	各小テストでの平均点が69%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40~69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が60%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30~59%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が29%以下	30
	プレゼンテーション・レポート	十分に準備をして臨み、表現力も豊かである 目的・本質を捉えたレポートになっている	内容は良いが、思うような表現ができていない レポートが感想になっている	準備が不十分である 期日までに未提出である	
関心・意欲・態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	20
	実験・探究活動等グループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる レポート課題の目的を理解し、結果や知見から考察ができ、本質を捉えることができています	すべての課題が提出されている 行った試技から、現象を捉え、データとしてまとめられている	課題が提出されていない 試技の感想に留まるなど、活動の本質が理解されていない	

理科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 探究力：物事を見極め、追究し、課題を解決する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識・技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度		
4 5 6	第1編 生物と遺伝子 第3章 遺伝子とその働き	<input type="checkbox"/> ヌクレオチドの構造や塩基の相補性に基づく2重らせん構造を理解している。	○			D	期末試験
	1. 遺伝子本体の構造	<input type="checkbox"/> DNA, 遺伝子, 染色体の違いをきちんと説明できる。		○		D	
	2. 遺伝情報の複製と分配	<input type="checkbox"/> 細胞分裂の各過程で起こる現象を理解している。	○			D	
	3. 遺伝情報とタンパク質の合成	<input type="checkbox"/> 生物材料を使って、体細胞分裂を観察することができる。		○	○	B	
		<input type="checkbox"/> セントラルドグマの仕組みを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 最新のバイオテクノロジーの意義や成果, 課題について正確に理解している。			○	E	

2・3学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識・技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度		
8 月	まとめ	<input type="checkbox"/> 自分なりの工夫を施して知識の整理をしている。	○	○	○	A	期末試験
	共通テスト対策	<input type="checkbox"/> 実践問題に取り組み、理解を深めている。	○	○	○	D	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	体育	単位数	2(理) 3(文)	履修学年	3	必修
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）					
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館） ステップアップ高校スポーツ2023（大修館）					

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。</p>
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
関心・意欲・態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。</p>	A B E
思考・判断・表現	<p>生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。</p>	A C D
技能	<p>運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。</p>	B C
知識・理解	<p>選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。</p>	B C D
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度 B 授業における発表 C スキルテスト・記録・ノート D 定期試験 E 課題等の提出</p>	

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント				評価方法	試験範囲
			関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解		
4	ガイダンス 体づくり運動	□体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、健康・安全を確保して取り組んでいる。		○			B	期 末 試 験
5	○選択Ⅰ [ボール型…バスケットボール、] [ネット型…バドミントン、バレーボール、 卓球] [ボール型…サッカー]	□技術などの名称や行い方、競技会の仕方などを理解している。				○	C	
		□チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて工夫している。		○	○		A	
6		□球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアプレイを大切にしようとしている。	○			○	B	
7	○体育理論	□社会の変化にともなうスポーツの役割と楽しみ方の変化を理解している。				○	D	
		□スポーツにかかわるさまざまな職業について理解し、説明することができる。		○			A	
	○選択Ⅱ 水泳・武道・ダンス から選択 [水泳…複数の泳法で長く泳ぐ] [武道…柔道・剣道] [ダンス…創作ダンス]	□自己に適した泳法の効率を高めて、泳ぐことができる。						
		□自己に適した得意技を用いた攻防が展開できる。			○	○	C	
		□特有の表現や踊りを身につけて、交流や発表ができる。						
		□生涯にわたって運動を豊かに実践するために、取り組み方を工夫している。	○	○			A	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント				評価方法	試験範囲
			関心意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解		
8	○選択Ⅱ 水泳・武道・ダンス から選択 〔水泳…複数の泳法で長く泳ぐ〕 〔武道…柔道・剣道〕 〔ダンス…創作ダンス〕	□自己に適した泳法の効率を高めて、泳ぐことができる。					C	期末試験
		□自己に適した得意技を用いた攻防が展開できる。			○	○		
9		□特有の表現や踊りを身につけて、交流や発表ができる。					A	
		□生涯にわたって運動を豊かに実践するために、取り組み方を工夫している。	○	○				
10	○陸上競技 ・長距離走 ・校内持久走大会 (男子20Km、女子)	□自己の課題に応じて適切な練習方法を選んでいる。	○	○			A	
		□自己に適したペースを維持して走ることができる。			○	○	C	
11	○体育理論	□ライフスタイルとスポーツのかかわり、スポールライフの設計のしかたについて理解している。				○	D	
		□自分に合ったスポーツライフを設計し、発表することができる。		○			A	
12	○選択Ⅲ 〔ボール型…バスケットボール、ハンドボール、サッカー〕 〔ネット型…バドミントン、バレーボール、卓球〕 ※選択Ⅰと違う型を選択	□技術などの名称や行い方、競技会の仕方などを理解している。				○	C	
		□チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて工夫している。		○	○		A	
		□球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアプレイを大切にしようとしている。	○			○	B	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント				評価方法	試験範囲
			関心意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解		
1	○体育理論	□現在にいたるまでの日本のスポーツ振興の流れを理解している。				○	D	学 年 末 試 験
		□スポーツと環境問題について考え、スポーツ場面で環境を保護するために私たちができることについて説明することができる。		○			A	
2	○選択Ⅲ 【ボール型…バスケットボール、ハンドボール、サッカー】 【ネット型…バドミントン、バレーボール、卓球】 ※選択Ⅰと違う型を選択	□技術などの名称や行い方、競技会の仕方などを理解している。				○	C	
		□チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて工夫している。		○	○		A	
3		□球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアプレイを大切にしようとしている。	○			○	B	

科目名	音楽Ⅱ	単位数	2	履修学年	1	必修
使用教科書	MOUSA 2 (教育芸術社)					
副教材						

学習の到達目標	<p>音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>2 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>3 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<input type="checkbox"/> 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 <input type="checkbox"/> 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けようとしている。	B C D E
思考・判断・表現	<input type="checkbox"/> 個性豊かに音楽表現を創意工夫しようとしている。 <input type="checkbox"/> 音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができている。	B C E
主体的に学習に取り組む態度	<input type="checkbox"/> 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育もうとしている。 <input type="checkbox"/> 感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養おうとしている。	A B E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 授業におけるグループワークへの取り組み C 実技試験および発表 D 作品提出 E ワークシート	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	実技試験および発表	歌唱の技能や楽器の演奏技術を十分に身につけ、表現意図によって技術を使い分けた演奏ができる	基礎的な歌唱の技能や楽器の演奏技術を身につけ、表現意図と結びついた演奏ができる	表現意図と結びついた演奏をするための基礎的な技能・技術を身につけていない
	作品提出	イメージに合った音符や休符などを適切に選択して創作するための楽譜のルールを十分に理解している	意図をもって音符や休符などを選択して創作するための基本的な楽譜のルールを理解している	意図をもって創作するために必要な楽譜のルールについての理解が不十分である
思考・判断・表現	実技試験および発表	楽曲を自分なりに解釈した上で明確な表現意図を持ち、それが十分に伝わる演奏をしている	自発的に表現意図を持って演奏していることがうかがえる	ただ演奏するのみで自発的な表現意図が感じられない
	作品提出	音楽を形づくっている要素とその働きが生み出す雰囲気について理解し、表現意図が十分に伝わる作品を創作している	音楽を形づくっている要素とその働きが生み出す雰囲気について理解し、表現意図をもって創作している	作品から表現意図が読み取れない
	ワークシート	音楽を形づくっている要素とその働きについて十分理解し、それらに関連づけ総合的に音楽を味わっていることが記述からみとれる。	音楽を形づくっている要素とその働きについて理解し、それらを根拠に自らが感受したことを記述できる	感受したことは書けるが、音楽を形づくっている要素と関連づけられた記述がみられない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲・態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている
	授業におけるグループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている
	ワークシートの記述	感受したことや自分の考えを、自分の言葉で具体的に記述している	感受したことや自分の考えを具体的に記述している	他者の意見を記述するなど、感受したことや自分の考えを具体的に記述しようとする意欲がみられない

芸術科の育てたい資質能力

- (1) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (2) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力
- (3) 協働力：他者と協力し、協働して物事を成し遂げる力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
4	曲想を感じ取って歌おう *学校応援歌 *ハナミズキ	□歌詞が聴き手に伝わるよう、大きな声ではっきりと歌う。	○		○	C
		□発声の基礎を学びよい響きの声で歌い、よく調和する響きをつくることができる。				A
5		□歌詞と旋律の関わりと、それが生み出す雰囲気を感じ取って表現を工夫することができる。		○		E
6	リズムアンサンブルに取り組もう ※ソルフェージュ ※PreludeⅢ	□リズムアンサンブルを体験し、読譜力や表現力、アンサンブル力を養う。				A
		□グループで楽器や身の周りのもの、声、身体を使い、意図をもってリズム創作に取り組む。	○	○		C
7	ミュージカルを鑑賞しよう	□オペラ座の怪人を鑑賞し、登場人物の関りやそれによってもたらされる演奏効果について理解する。	○	○	○	E
						A

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
8	ギターを演奏しよう	□TAB譜を理解し、簡単な曲を演奏できる。	○	○		B
9		□ストロークなどを工夫することで、曲に合った演奏表現をする。		○	○	E
10	和楽器に親しもう	□和楽器の歴史や文化について理解する。		○		E
11		□様々な奏法を用いて親しみやすい曲を演奏し、曲にあった演奏表現の工夫をする。	○	○	○	D
12	ミュージカル・ナンバーや歌曲を歌おう	□創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方、及び他者との調和を意識して歌う技能を身につけ、表現している。	○		○	C A
		□音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きに感受しながら、どのように歌うかについて表現意図をもっている	○	○	○	E

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
1	表現を工夫して合唱をしよう	□曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。	○		○	A
2		□創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方、及び他者との調和を意識して歌う技能を身につけ、表現している。	○	○		B
3		□曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、主体的・共同的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。		○	○	E

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	美術Ⅱ	単位数	2	履修学年	3	必修
使用教科書	高校美術Ⅱ（日文）					
副教材						

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	造形的な見方・考え方を働かせて、 □創造活動を通じた造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から表現の特質を理解している。 □造形要素の働きなどについて、創造活動を通じた造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から表現の特質を理解したりしている。	A C D
思考・判断・表現	造形的な見方・考え方を働かせて、 □主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 □美的体験を豊かにし、美術作品などを様々な観点から鑑賞して、心豊かな生き方に関わる美術の働きや、美術文化を伝統的かつ創造的側面から深く捉え、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	C D E
主体的に学習に取り組む態度	造形的な見方・考え方を働かせて、美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や、生活や社会の中の美術の働き及び美術文化と幅広く関わり、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	A B E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 授業におけるグループワークへの取り組み C 制作および発表 D 作品 E ワークシート	

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
4	人体をよく観察して描こう	<input type="checkbox"/> 友人をモデルに、人体の構造を学ぶ。				
5	*人物クロッキー	<input type="checkbox"/> 短時間の中で人体の動きを捉え、画面構成を考えたが描くことができる。	○	○		D
		<input type="checkbox"/> 対象の特徴を線の表現や明暗を工夫し、鉛筆で描くことができる。				
6	*自画像	<input type="checkbox"/> 普段意識することの少ない「自分」を改めて見つめ直し、その構造や特徴を理解することができる。	○		○	A
		<input type="checkbox"/> テーマを基に、描く題材の選択や油絵による表現採するとともに画面構成を考えることができる。				
		<input type="checkbox"/> 形と色の効果を活かしながら、豊かな表現で描くことができる。	○	○		C
7	映像作品を鑑賞して制作者の技術と思考を学ぼう	<input type="checkbox"/> 実在した芸術家のドキュメンタリーを鑑賞することにより、作品が完成するまでの過程や、制作におけるアイデアなどを学ぶ。 <input type="checkbox"/> 芸術家の作品を鑑賞することで制作への意欲に近づけようとしている。 <input type="checkbox"/> 芸術家の作品から、さまざまな工夫や創造性を汲み取ろうとしている。		○	○	E

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
8	彫刻で抽象作品を作ろう	<input type="checkbox"/> 具象・抽象の概念を理解し、テーマを抽象的な形で表現する。	○	○		C
9		<input type="checkbox"/> アイデアスケッチを通して、表現しようとするテーマから形を想像する。				
10		<input type="checkbox"/> 石という素材を理解して、その加工の仕方や道具の使い方を学ぶ。	○	○	○	A
11		<input type="checkbox"/> 彫刻における造形要素を理解し、量感等を感じ取り作品の表現に生かす。				
12	アニメーションを鑑賞して制作者の技術と思考を学ぼう	<input type="checkbox"/> さまざまな時代のアニメーション作品を鑑賞することにより、その時代背景や当時の社会的関心、映像メディアにおける表現技術などを学ぶ。				
		<input type="checkbox"/> アニメーション作品を鑑賞することで制作への意欲につなげる。		○	○	E
		<input type="checkbox"/> アニメーションの鑑賞を通じて、さまざまな工夫や創造性を汲み取る。				

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法
			知識技能	思考判断表現	態度	
1	パッケージデザインをしよう	<input type="checkbox"/> 商品のイメージを考慮して、形と色の効果を活かしながら美しいパッケージをデザインする。	○		○	B
2		<input type="checkbox"/> 立体的な構造に見合う画面構成を検討する。	○	○		C
3		<input type="checkbox"/> 形における構成と色の配色を検討しながら、立体的な画面構成と全体のイメージを表現する。	○	○		D

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	英語 コミュニケーションⅢ	単位数	6	履修学年	3	必修
使用教科書	Grove English Communication III (文英堂)					
副教材	ワークブック・英単語帳・速読問題集・文法問題集 等					

学習の到達目標	<p>ア 日常的・社会的な話題について、ほとんど支援がなくとも、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>イ 日常的・社会的な話題について、ほとんど支援がなくとも、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>ウ 日常的・社会的な話題について、ほとんど支援がなくとも、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。</p> <p>エ 日常的・社会的な話題について、ほとんど支援がなくとも、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。</p> <p>オ 日常的・社会的な話題について、ほとんど支援がなくとも、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることができる。</p>
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	A B C D E
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	A B C D E
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	A B C D E
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度</p> <p>B 授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み</p> <p>C 小テスト</p> <p>D 定期試験</p> <p>E 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	中間試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が31~74%	知識・技能をはかる問題の正答率が30%以下
	期末試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が31~74%	知識・技能をはかる問題の正答率が30%以下
	小テスト①（主に知識に関するもの）	各小テストでの平均点が70%以上	各小テストでの平均点が60%~69%	各小テストでの平均点が59%以下
思考・判断・表現	中間試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が31~74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30%以下
	期末試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が31~74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30%以下
	小テスト②（主に表現に関するもの）	十分に準備をしてテストに臨み、表現力も豊かである	準備はしたが、思うような表現ができていない	準備が不十分である
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている
	授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている
	課題	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	おおむねすべての課題が提出されている	課題が提出されていない
	小テスト③（主に課題への取り組み状況を見るもの）	課題に意欲的に取り組んだことが見てとれる	課題におおむね真面目に取り組んだことが見てとれる	課題への意欲が見られない

英語科の育てたい資質能力	
(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力	
(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力	
(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力	
小山西高校の育てたい資質能力	
「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」	

※評価のためのルーブリックの数値は必要に応じて調整する。

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R: 読むこと★ L: 聞くこと W: 書くこと I: 話すこと(やり取り)★ P: 話すこと(発表)★ ※★は特に身につけてほしい技能		評価の観点			評価方法	試験範囲
				知識技能	思考判断表現	態度		
4	LESSON 1 Fashion Revolution: Who Made Your Clothes?	R	Fashion Revolutionの活動について、各パラグラフのつながりを意識しながら、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	中間試験
		L	Fashion Revolutionの活動について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	Fashion Revolutionの活動について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	自分が着ている洋服を製造している国について、知識や考えを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	
4	LESSON 2 The Custom of Food Samples	R	食品サンプルについて、5W1Hの情報を意識しながら、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	中間試験
		L	食品サンプルについて、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	食品サンプルについて、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	作ってみたい食品サンプルについて、自分の考えや意見などを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	
4	LESSON 3 A Boy Who Inspired the World	R	夢の実現のために努力するフィリピンの少年について、時間的順序を意識しながら、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	中間試験
		L	夢の実現のために努力するフィリピンの少年について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	夢の実現のために努力するフィリピンの少年について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	夢の実現のために努力するフィリピンの少年について、自分の考え・感想などを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	
5	LESSON 4 Socotra: A Unique Island	R	ソコトラ島について、言い換え表現や代名詞の内容を意識しながら、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	中間試験
		L	ソコトラ島について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	ソコトラ島について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	日本にある世界遺産について、自分の知識や経験などを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	

5	LESSON 5 No Meat on Monday	R	Meat Free Mondayの活動内容と背景について、各パラグラフの役割を意識しながら、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	中間試験
		L	Meat Free Mondayの活動内容と背景について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	Meat Free Mondayの活動内容と背景について、聞いたたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	肉なしのランチについて、自分の考えや感想などを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	
5	LESSON 6 Bamboo Trains	R	バンブートレインについて、因果関係を意識しながら、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	期末試験
		L	バンブートレインについて、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	バンブートレインについて、聞いたたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	カンボジアやカンボジアの世界遺産について、自分の知識や感想などを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	
6	LESSON 7 Holiday Weight Gain	R	祝祭休日期間の体重増加について、比較されている内容を整理しながら、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	期末試験
		L	祝祭休日期間の体重増加について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	祝祭休日期間の体重増加について、聞いたたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	日本で最も体重が増加する休日期間について、意見や考えなどを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	
6	LESSON 8 A Feathery Find in Amber	R	琥珀の中の恐竜の羽毛について、事実と意見の違いを意識しながら、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	期末試験
		L	琥珀の中の恐竜の羽毛について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	琥珀の中の恐竜の羽毛について、聞いたたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	絶滅した動物について、知識や考えなどを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	
6	LESSON 9 Bed Nets for African Children	R	蚊帳によるマラリア対策について、数値に関する情報に注意しパラグラフどうしのつながりを意識しながら、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	期末試験
		L	蚊帳によるマラリア対策について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	蚊帳によるマラリア対策について、聞いたたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	感染症について、調べてまとめた情報など伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	

7	LESSON 10 The Way You Look at a Problem	R	4枚カード問題と確証バイアスについて、仮定の表現に注意して論点を整理しながら、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	2 学 期 中 間 試 験
		L	4枚カード問題と確証バイアスについて、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	4枚カード問題と確証バイアスについて、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	確証バイアスを避ける方法について、意見や考えなどを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	

※入試対策問題演習も随時行う

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R：読むこと★ L：聞くこと W：書くこと I：話すこと（やり取り）★ P：話すこと（発表）★ ※★は特に身につけてほしい技能		評価の観点			評価方法	試験範囲
				知識技能	思考判断表現	態度		
9	LESSON 11 A Song for the Queen	R	シルビア王妃とABBAの歌との関わりについて、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	中間試験
		L	シルビア王妃と ABBA の歌との関わりやALTへのインタビューの内容について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	シルビア王妃とABBAの歌との関わりについて、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	シルビア王妃の人となりや想像して王妃にどんな声をかけるか、自分の考えや意見などを伝えあったり、ALTへのインタビューのやり取りを続けたりすることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	
9	LESSON 12 Olympic Sports Come and Go	R	過去にオリンピックから除外された競技種目について、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	中間試験
		L	過去にオリンピックから除外された競技種目やブレイクダンスが正式種目に採用されたニュースについて、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	オリンピックから除外された競技種目についての情報や自分の考え・感想など、ブレイクダンスが正式種目に採用されたことへの意見などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	最も印象的なオリンピック種目や選手についての自分の考えなどを伝えあったり、ブレイクダンスが正式種目に採用されたことについて書いたエッセイの内容の質疑応答を続けたりすることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	
10	LESSON 13 Audrey Tang: Not Just an IT Expert	R	タン氏の考えや行動、まちづくりに関するウェブサイトについて、必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	中間試験
		L	タン氏の考えや行動やまちづくりのワークショップについて、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	タン氏の考えや行動について、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	タン氏が引用する“Anthem”の歌詞について、自分の考えなどを伝えあったり、まちづくりのワークショップの計画案についての質疑応答を続けたりすることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	
10	LESSON 14	R	Earth Hourの活動とその広がりや、地球温暖化に対応するEVの推進について、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じてとらえることができる。	○	○		D	期
		L	Earth Hourの活動とその広がりについて、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	

	LESSON 14 Earth Hour	W	Earth Hourの活動とその広がりや、地球温暖化に対応するEVの推進について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	未 試 験
		I	日常生活での省エネの工夫や地球温暖化に対応するEVの推進について、意見や考えなどを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	地球温暖化に対応するEVの推進について、自分の考え・意見などを論理性に注意して発表することができる。		○	○	C	
11	LESSON 15 Making a Bright Future Through Chocolate	R	チョコレートの原料産地と児童労働について、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	期 末 試 験
		L	チョコレートの原料産地と児童労働の問題について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	チョコレートの原料産地と児童労働について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	チョコレートの原料産地と児童労働について、意見や考えなどを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	児童労働をなくす取り組みについて、自分の考え・意見などを論理性に注意して発表することができる。		○	○	C	
11	LESSON 16 Spot Fake News	R	ネットのフェイクニュースとメディアリテラシーの重要性について、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	期 末 試 験
		L	フェイクニュースについて、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	ネットのフェイクニュースとメディアリテラシーの重要性について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	自分のニュースソースやフェイクニュースを見分けるポイントについて、意見や考えなどを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○	C	
12	LESSON 17 The Sagrada Familia: A Spiritual Wonder	R	サグラダ・ファミリアとアントニ・ガウディについて、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	
		L	サグラダ・ファミリアとアントニ・ガウディについて、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	サグラダ・ファミリアとアントニ・ガウディについて、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	サグラダ・ファミリアとアントニ・ガウディについて、意見や考えなどを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	関心のある世界遺産の出来事について、自分の考え・意見などを論理性に注意して発表することができる。		○	○	C	

※入試対策問題演習も随時行う

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R: 読むこと★ L: 聞くこと W: 書くこと I: 話すこと(やり取り)★ P: 話すこと(発表)★ ※★は特に身につけてほしい技能		評価の観点			評価方法	試験範囲
				知識技能	思考判断表現	態度		
1	LESSON 18 NASA's Hidden Treasures: Human Computers	R	NASAで活躍した3人の黒人女性の職務と経歴や人種や性差別の問題について、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	
		L	NASAで活躍した3人の黒人女性の職務と経歴について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	NASAで活躍した3人の黒人女性の職務と経歴や人種や性差別の問題について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	自分が直面した困難を克服した経験や人種や性差別の問題について、情報や意見・考えなどを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	人種や性差別の問題について、情報や自分の考え・感想などをまとめ、発表したり、自分が直面した困難を克服した経験や意見を交換したりすることができる。		○	○	C	
1	LESSON 19 Why Can't You See It?	R	Gorillas in Our Midst などの実験について、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	
		L	Gorillas in Our Midst の実験と注意の錯覚について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	Gorillas in Our Midst などの実験について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	理科の授業でやった実験などの情報や経験・感想などを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		P	Gorillas in Our Midst などの実験について、情報や自分の考え・意見などを論理性に注意して発表することができる。		○	○	C	
1	LESSON 20 The Svalbard Global Seed Vault	R	スバルバル世界種子貯蔵庫や地球レベルの環境問題について、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点をとらえることができる。	○	○		D	
		L	スバルバル世界種子貯蔵庫について、必要な情報を聞き取り、概要や要点をとらえることができる。			○	A	
		W	スバルバル世界種子貯蔵庫や地球レベルの環境問題について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や自分の考え・感想などを論理性に注意して書くことができる。	○	○	○	A	
		I	危機に直面している生物種や地球レベルの環境問題について、情報や意見や考えなどを伝えあうやり取りを続けることができる。			○	B	
		L	スバルバル世界種子貯蔵庫や地球レベルの環境問題について、情報や自分の考え・意見などを論理性に注意して発表することができる。			○	A	

※ Lesson18～20は全てではなく、選択して学習する予定

※入試対策問題演習も随時行う

科目名	英語実践	単位数	理2 文4	履修学年	3	文型選択
使用教科書	NEO 現代を見る Approach (いっずな書店)					
副教材	共通テスト英語リーディングオリジナル問題集 TACTICS (桐原書店) (うち文系2単位)					

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている．	A B C D E
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概念や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている．	A B C D E
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている．	A B C D E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み C 小テスト D 定期試験 E 課題等の提出	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	中間試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～74%	知識・技能をはかる問題の正答率が30%以下
	期末試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～74%	知識・技能をはかる問題の正答率が30%以下
	小テスト	各小テストでの平均点が70%以上	各小テストでの平均点が60%～69%	各小テストでの平均点が59%以下
思考・判断・表現	中間試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30%以下
	期末試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30%以下
	小テスト②（主に表現に関するもの）	十分に準備をしてテストに臨み、表現力も豊かである	準備はしたが、思うような表現ができていない	準備が不十分である
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている
	授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている
	課題	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない
	小テスト③（主に課題への取り組み状況を見るもの）	課題に意欲的に取り組んだことが見てとれる	課題におおむね真面目に取り組んだことが見てとれる	課題への意欲が見られない

英語科の育てたい資質能力

(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力

(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R: 読むこと L: 聞くこと W: 書くこと I: 話すこと (やり取り) P: 話すこと (発表)		評価の観点のポイント				評価方法	試験範囲
				関心意欲態度	表現の能力	理解の能力	知識理解		
4	Part 1 Lesson 1～3 文の構造①② SV (知覚動詞など)OC SV (使役動詞)OC 日本語で表されない主語など	R	□歴史 (印刷の歴史、カレーの起源等) に関する英文を読み、内容を理解することができる。			○	○	D	中間試験
		L	□英文を聞いて、Targetの内容と一致するかを答えることができる。	○		○		B	
		W	□新しいクラスで行う自己紹介の英文を書くことができる。 □最近面白かったり、心に残ったりした出来事について書くことができる。		○		○	D	
		I	□クラブ活動や趣味・先週末・夏休みに出かけたことについて対話することができる。	○	○			B	
5	Part 1 Lesson4～6 無生物主語①② 現在形・現在進行形 過去形・過去進行形 現在完了形 (完了進行形) 過去完了形 (完了進行形)	R	□文化 (衣服や第三文化の子ども等) に関する英文を読み、内容を理解することができる。			○	○	D	
		L	□英文を聞いて、Targetの内容と一致するかを答えることができる。	○		○		B	
		W	□自分が興味を持ったニュースの感想を書くことができる。 □好きな外国の料理やおすすめのレストランについて書くことができる。 □パートナーを紹介する新聞記事を書くことができる。		○		○	D	
		I	□興味を持ったニュースや好きな外国料理・おすすめのレストランについて対話できる。	○	○			B	
6	Part 1 Lesson7～9 未来を表す表現①② 助動詞①② 受動態①②	R	□言語 (少数言語や翻訳等) に関する英文を読み、内容を理解することができる。			○	○	D	
		L	□英文を聞いてTargetの内容と一致するかを答えることができる。	○		○		B	
		W	□クラブや地域の行事の予定や内容を告知する英文を書くことができる。 □訪れたい世界遺産や観光名所を紹介する英文を書くことができる。		○		○	D	
		I	□自分が希望するホームステイについて対話することができる。	○	○			B	
7	Part 1 Lesson10～12 不定詞 (名詞的用法) 動名詞 名詞節①② 名詞を修飾する語句①②	R	□社会 (プライバシーや都市の生活) に関する英文を読み、内容を理解することができる。			○	○	D	
		L	□英文を聞いて、Targetの内容と一致するかを答えることができる。	○		○		B	
		W	□将来つきたい職業について、友人宛てのメールを書くことができる。 □高校生が健康な生活を送るために必要なことについて自分の意見を書くことができる。 □お祝いのカードを書くことができる。		○		○	D	
		I	□将来つきたい職業やお祝いのカードを送りたい相手について対話することができる。	○	○			B	

2 学期～3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R：読むこと L：聞くこと W：書くこと I：話すこと（やり取り） P：話すこと（発表）		評価の観点のポイント				評価方法	試験範囲
				関心 意欲 態度	表現 の 能力	理解 の 能力	知識 理解		
8	Part 1	R	□健康（集中力を高める方法や近視等）についての英文を読み、内容を理解することができる。			○	○	D	中間試験
9	Lesson13～15	L	□英文を聞いて、Targetの内容と一致するかを答えることができる。	○		○		B	
	関係代名詞 関係副詞 前置詞と関係代名詞 関係詞の非制限用法 不定詞 （副詞的用法） 分詞構文	W	□好きな本・漫画・映画を紹介する英文を書くことができる。 □自分が住む街を紹介する英文を書くことができる。 □自分の心に残っている言葉について書くことができる。		○		○	D	
		I	□好きな本・漫画・映画、自分が住む街のおすすめの観光スポットについて対話できる。	○	○			B	
10	Part 1	R	□科学（月の起源や気候変動の影響）についての英文を読み、内容を理解することができる。			○	○	D	中間・ 期末試験
11	Lesson16～18	L	□英文を聞いて、Targetの内容と一致するかを答えることができる。	○		○		B	
	副詞節①② 否定語 部分否定	W	□高校生にとって電子辞書を使う利点と欠点について書くことができる。 □自分が住む街の特産品、観光地、施設などの広告文を書くことができる。		○		○	D	
		I	□ほかの国の人に体験してほしい日本の文化について対話することができる。	○	○			B	
		P	□自分が住む街について英語でスピーチをすることができる。		○		○	C	
12	Part 1	R	□自然（犬の進化）に関する英文を読み、内容を理解することができる。			○	○	D	期末試験
	Lesson19	L	□英文を聞いてTargetの内容と一致するかを答えることができる。	○		○		B	
	原級を用いた表現 比較級、最上級を用いた表現	W	□自分のクラブ活動、クラス、学校を紹介するウェブサイトで見ることができる。 □留学したい場所や留学した時に日本について一番何を恋しく思うかを書くことができる。		○		○	D	
		I	□自分のクラブ活動、クラス、学校をなどについてウェブサイトで見たいか対話することができる。	○	○			B	
		P	□どこに留学したいかについてクラスに紹介することができる。		○		○	C	
1	Part 1	R	□人生（児童養護施設・孤児院での生活）に関する英文を読み、内容を理解することができる。			○	○	D	期末試験
	Lesson20	L	□英文を聞いてTargetの内容と一致するかを答えることができる。	○		○		B	
	仮定法過去 仮定法過去完了 仮定法を使った表現	W	□自分のクラブ活動、クラス、学校を紹介するウェブサイトで見ることができる。 □留学したい場所や留学した時に日本について一番何を恋しく思うかを書くことができる。		○		○	D	
		I	□自分のクラブ活動、クラス、学校をなどについてウェブサイトで見たいか対話することができる。	○	○			B	
		P	□どこに留学したいかについてクラスに紹介することができる。		○		○	C	

※2単位の授業では、長文読解問題集を用いて読解のために必要な基礎的な力の定着を図る。

※原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	保育基礎	単位数	2	履修学年	3	選択
使用教科書	保育基礎（教育図書）					
副教材	LIFEおとなガイドデジタル+（教育図書） 楽しく学べるマナーの基本（教育図書）					
学習の到達目標	<p>ア 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化等について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>イ 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>ウ 子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>					
評価の観点・内容および評価方法						
評価の観点	評価の内容			評価方法		
知識・技能	・子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を身につけている。保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。			B C D		
思考・判断・表現	・子どもの発達や保育に関する現状を理解し、課題を発見し、課題解決を目指し思考を深めている。			B D E		
関心・意欲・態度	・子どもの発達や保育への関心を持ち、子どもの健やかな発達を目指し、意欲的に学習に取り組んでいる。			A E		
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 定期テスト C 実技試験 D ワークシート、実験・実習レポート E 課題の取り組み状況					

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	実技テスト	基本的な技術が十分身につけており、計画的に実践できている。	基本的な技術の習得に粘り強く取り組み、実践できている。	基本的な技術の習得ができていない。
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が45～69%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が45%以下
	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下
思考・判断・表現	実験・実習レポート	目的を十分に達成し、論理的に考察できている。	目標を達成でき、内容も十分に把握できている。	目的を達成しておらず、内容が不十分である。
	パフォーマンス課題	課題を解決に向け、計画を立て探求し、結果をわかりやすく表現している。	課題を把握しているが、不十分な面があり、思うような表現ができていない。	準備が不十分である。
	主体的に学習に取り組む態度	課題解決に向け、意欲的にワークシートやレポートに取り組んでいる。	ワークシートやレポートをこなし、授業に意欲的に取り組んでいる。	授業に意欲的に取り組んでいない。
主体的に学習に取り組む態度	授業におけるグループワークや実験・実習への取り組み	他者に配慮し、協力しながら意欲的に取り組んでいる。	他者に配慮しながら、自分のやるべき活動をこなしている。	他者理解ができず、やるべき活動をこなしていない。
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みがみられる。	すべての課題が提出されている。	課題が提出されていない。

家庭科の育てたい資質能力

- (1) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (2) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (3) 協働力：他者と協力し、協働して物事を成し遂げる力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	第1章 子どもの保育(1) 保育の意義	□保育は子どもの生涯の人格形成を培う重要な意義があることを理解し、保育者としての役割を理解している。	○		○	AD	期末試験
	(2) 保育の環境	□家庭での保育と集団保育の役割を理解し、子どもを取り巻く社会変化や保育の課題について理解し、健やかな発達のための適切な環境について具体的に考察することができる。		○		BE	
	(3) 保育の方法	□保育の目標と保育者からの働きかけの重要性を理解し、月齢・年齢の応じた保育の方法を理解している。	○		○	AB	
5	第2章 子どもの発達 (1) 子どもの発達の特性	□発達には順序性・連続性・方向性・相互性の共通性がある一方で個人差が大きいことを理解している。	○		○	AB	
	(2) 乳幼児の発育と発達	□誕生から幼児期までの子どもの身体的発育、運動機能、認知機能などの特性について理解している。	○		○	BD	
		□心の発達の土台として愛着形成が重要であることを理解し、対人関係と社会性について考えを深めている。		○	○	DE	
6	第5章 子どもの文化 (1) 子どもの文化の意義 (2) 子どもの文化を支える場	□子どもの文化の意義や役割を理解し、現状と課題について考察することができる。	○	○		BD	
	(3) 子どもの遊び	□子どもの健やかな発達が遊びによってもたらされることを理解している。	○		○	BD	
7		□子どもの遊具作成に取り組み、保育者として適切なかわりができる。	○		○	CE	
	保育実習	□子どもとの触れ合いを通して、子どもの保育方法や発、健康、安全、福祉、遊びについての理解を深めている。	○	○	○	ACE	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	第3章 子どもの生活 (1)子どもの健康と安全	<input type="checkbox"/> 子ども養護の必要性と生活習慣を身に付けるために援助方法について思考を深めている。		○	○	A B	期 末 試 験
9	(2)子どもの食事	<input type="checkbox"/> 子ども栄養と食生活の特徴を理解し、実際に技術を身に付けている。	○		○	B C	
	(3)子どもの衣服と寝具	<input type="checkbox"/> 乳幼児に適した安全な被服や寝具を選択することができる。	○	○		C E	
10	(4)子どもの健康と安全	<input type="checkbox"/> 子どもの健康管理や事故防止、対処の方法について理解を深め、対策をとることができる。	○		○	B C	
11	第4章 子どもの福祉 (1)児童館	<input type="checkbox"/> 子ども観の変遷や権利について理解している。	○			B	
12	(2)児童福祉の理念と法規・制度	<input type="checkbox"/> 児童福祉に関わる法律や施設の役割について理解している。	○			B	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価	試験範囲
			知識 技術	思考 判断 表現	態度		
1	保育の課題	□子どもを取り巻く課題について自分の考えをまとめ、発表できる。	○	○	○	E	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	フードデザイン	単位数	2	履修学年	3	選択
使用教科書	フードデザインFood changes LIFE (教育図書)					
副教材	LIFEおとなガイドデジタル+ (教育図書) 楽しく学べるマナーの基本 (教育図書)					

学習の到達目標	<p>ア栄養、食品、献立、テーブルコーディネート等について体系的・系統的に理解すると共に関連する技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上のため合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>ウ食生活の向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的</p>
---------	---

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・理解	・食生活を総合的にデザインするために必要な栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネート等についての知識を身につけている。	B D
思考・判断・表現	・食生活全般に関する課題を見つけ、その解決を目指して、思考を深めている。	B D E
技能	・栄養、食品、調理、料理様式と献立、テーブルコーディネートなどに関する技術が身につけている。	C D
関心・意欲・態度	・食事を総合的にデザインすることに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組んでいる。	A E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 定期テスト C 実技試験 D ワークシート、実験・実習レポート E 課題の取り組み状況	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	実技テスト	基本的な技術が十分身につけており、計画的に実践できている。	基本的な技術の習得に粘り強く取り組み、実践できている。	基本的な技術の習得ができていない。
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が45～69%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が45%以下
	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下
思考・判断・表現	実験・実習レポート	目的を十分に達成し、論理的に考察できている。	目標を達成でき、内容も十分に把握できている。	目的を達成しておらず、内容が不十分である。
	パフォーマンス課題	課題を解決に向け、計画を立て探求し、結果をわかりやすく表現している。	課題を把握しているが、不十分な面があり、思うような表現ができていない。	準備が不十分である。
	主体的に学習に取り組む態度	課題解決に向け、意欲的にワークシートやレポートに取り組んでいる。	ワークシートやレポートをこなし、授業に意欲的に取り組んでいる。	授業に意欲的に取り組んでいない。
主体的に学習に取り組む態度	授業におけるグループワークや実験・実習への取り組み	他者に配慮し、協力しながら意欲的に取り組んでいる。	他者に配慮しながら、自分のやるべき活動をこなしている。	他者理解ができず、やるべき活動をこなしていない。
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みがみられる。	すべての課題が提出されている。	課題が提出されていない。

家庭科の育てたい資質能力

- (1) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (2) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (3) 協働力：他者と協力し、協働して物事を成し遂げる力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価	試験範囲
			関心意欲態度	思考判断表現	知識理解		
4	第1章 健康と食生活 1 食事の意義と役割	<input type="checkbox"/> フードデザインを学ぶ目的と内容を理解し、健康的な食生活を考え、理解を深めている。	○		○	A E	期末試験
	第2章 栄養素・食品の特徴 1 健康に必要な栄養素	<input type="checkbox"/> 各栄養素の代謝経路と役割について理解している。		○	○	B D	
5	第3章 調理と献立 1 調理の基本	<input type="checkbox"/> 調理器具や調理法を理解し、実際の調理を行う下地作りができる。	○		○	A B C	
6	第2章 栄養素と食品の特徴 2 食品の特徴	<input type="checkbox"/> 様々な食品の特徴とその調理性、加工について理解している。	○		○	A B	
	3 食品の加工の目的	<input type="checkbox"/> 加工食品の目的や方法を理解し、実践できる。			○	B C	
7	4 食品の選択と取り扱い	<input type="checkbox"/> 食品情報の正しい見方を知り、食品選択ができる。	○	○	○	B D	
	第4章 調理実験・実習 1 調理の基本	<input type="checkbox"/> 基本的な調理操作を理解し、衛生面に配慮した実践ができる。	○			A C	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価	試験範囲
			関心意欲態度	思考判断表現	知識理解		
8	第3章 調理と献立 2 ライフステージと食事計画	<input type="checkbox"/> 年齢、性別、運動量による必要とされる栄養素の違いを理解しライフステージごとの特徴を理解している。	○		○	A B	期 末 試 験
9	3 献立作成	<input type="checkbox"/> 望ましい献立作成ができる。		○	○	D E	
10	4 様式別の献立と調理・食卓作法	<input type="checkbox"/> 各様式別料理の特徴を理解し、各様式に適したマナーを身に付けている。	○		○	A B	
11	5 食文化	<input type="checkbox"/> 地域やライフスタイルに合わせた多様な食文化を理解し、伝承・創造していこうとしている。	○	○	○	B D	
	6 テーブルコーディネート	<input type="checkbox"/> 食事のテーマに沿った食卓の整え方や環境作りの技術を身につけている。	○			A C	
12	第4章 調理実験・実習	<input type="checkbox"/> 食品の調理性を踏まえ、環境に配慮した調理法の工夫ができる。	○		○	A C	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価	試験範囲
			意欲 関心 態度	思考 判断 表現	知識 理解		
1	第5章 豊かな食生活をつくる	□食生活の現状と課題から食生活を見直し生活の充実向上を図っている。	○	○		E	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	演奏研究	単位数	2	履修学年	3	選択
使用教科書	Music Note					
副教材						

学習の到達目標	<p>音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>1、演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けようとする。</p> <p>2、音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>3、音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<input type="checkbox"/> 演奏における客観性と多様性について理解を深めている。 <input type="checkbox"/> 理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けようとする。	B C D E
思考・判断・表現	<input type="checkbox"/> 時代や地域による表現上の特徴やこの作曲家の表現上の特徴などを踏まえた演奏を目指している。 <input type="checkbox"/> 自分や他者の演奏が音楽の様式に踏まえた演奏となっているか、思考、判断し、表現しようとしている。	A B C D E
主体的に学習に取り組む態度	時代や地域、作曲家、声や楽器の表現上の特徴を踏まえて作品を注釈したり、様式等に即した演奏を追求しようとしている。	A B C E
評価方法	A 授業に対する意欲・態度 B 授業におけるグループワークへの取り組み C 発表 D 作品及びレポート E ワークシート	

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に取り組む態度		
4	ピアノ基礎	<input type="checkbox"/> 指使いや打鍵の技術などを習得する。 <input type="checkbox"/> 音階・リズム・音程・和音等を実技の中で習得する。	○		○	B	期末試験
		<input type="checkbox"/> 自分のレベルに合った曲を選択し、記譜されている記号に気を付けて演奏する。		○		C	
5	歌唱基礎	<input type="checkbox"/> 息と声のバランス、声区の転換などを研究し、美しいフレージングの作り方を身に付ける。		○	○	A	
			○			E	
6	器楽	<input type="checkbox"/> 自ら選択した楽器を用いて、創意工夫して音楽表現をする。				B	
7				○	○	C	
	音楽鑑賞	<input type="checkbox"/> ミュージカル・オペラの作品に触れ音楽的な背景や舞台上での演出等鑑賞する。	○		○	E	

2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に取り組む態度		
8 9	ハンドベル	□童謡や馴染みのある曲を扱いながら基本的な音階やリズムを理解し、音色の違いや生み出される雰囲気味わいながら工夫して演奏する。		○	○	B C	期末試験
10	器楽応用	□記譜されている記号などから作曲家の意図をくみ取り、自分なりのイメージを持って演奏表現を工夫する。2学期は連弾及びアンサンブルでの演奏に取り組む。				A	
11			○	○	○	C	
						E	
12	音楽鑑賞	□ミュージカル・オペラの作品に触れ音楽的な背景や舞台上での演出等鑑賞する。	○		○	E	
	弾き歌い	□歌とピアノの音量を工夫し、バランスのよい演奏ができる。		○	○	C	

3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に取り組む態度		
1 2 3	課題レポート	□総まとめとして自ら取り組んだ楽器や音楽に関する課題を自ら選択しレポート提出及び発表する。		○	○	D	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。